

2017年2月

「東京レインボープライド
2016 来場者アンケート調査」
報告書

—LGBTの人々の声—

駒澤大学文学部社会学科専攻 松信ひろみ研究室

目 次

はじめに（調査の実施概要と結果の概況）	4-7
第1章 アンケート集計結果	
Q1 東京レインボープライド 2016 を知ったきっかけ	8
Q2 東京レインボープライド（パレード）への参加回数	8
Q3 参加目的	9
Q4 会場での催しの満足度	9-11
Q4SQ1 会場での催しに満足しなかった理由	11-13
Q5 レインボーウィーク期間の他の催しへの参加予定	13-14
Q6 LGBT 関連の団体や活動への参加状況	14
Q6SQ1 LGBT 関連の団体や活動に参加しない理由	14-15
Q7 職場選択の基準（LGBT フレンドリーか否か）	15
Q8 学校での LGBT 教育の経験の有無	15-16
Q8SQ1 学校で経験した LGBT 教育の内容	16
Q9 職場での LGBT 研修の経験の有無と内容	16-17
Q9SQ1 職場で経験した LGBT 研修の内容	17
Q10 学校での LGBT 教育への希望の有無	17-18
Q10SQ1 学校で希望する LGBT 教育の内容	18
Q11 職場での LGBT 研修への希望の有無	18-19
Q11SQ1 職場で希望する LGBT 研修の内容	19
Q12 商品購入の基準（その製品の会社が LGBT フレンドリーか否か）	19-20
Q13 新宿 2 丁目の LGBT が集まるお店の利用	20-22
Q14 同性パートナーシップ証明書の利用への意向	22
Q14SQ1 同性パートナーシップ証明書を利用しない理由	22-23
Q14SQ2 同性パートナーシップ証明書を利用する理由	23
Q15 日本における同性カップルの法的保障制度	23-24
Q16① 日常生活の困難（人間関係）	24-25
Q16② 日常生活の困難（生活環境）	25
Q16③ 日常生活の困難（社会保障）	26
Q17 回答者の年齢	26
Q18 回答者の居住地	27
Q19 回答者の家族構成	27
Q20 パートナーの有無	28

Q21	パートナーとの関係で望むこと	28
Q22	同性パートナーの日本語表記	28-29
Q23	回答者の職業	29
Q24	回答者のセクシュアリティ	30
Q25	回答者の身体的性と性自認	30
Q26	回答者の性的指向	31
Q27	回答者が自身のセクシュアリティを認識した時期	31
Q28	回答者のカミングアウトの状況	32
Q28SQ1	回答者がカミングアウトしている人	32-33

第2章 アンケート項目の「その他」の具体的内容と自由記述

Q1	「その他」	34
Q2	「その他」	34
Q3	「その他」	34-35
Q4SQ1a	「その他」	35
Q5	「その他」	35
Q6SQ1	「その他」	36
Q8SQ1	「その他」	36
Q10SQ1	「その他」	37
Q11SQ1	「その他」	37
Q14SQ1	「その他」	37
Q14SQ2	「その他」	38
Q15	「その他」	38
Q18	「その他」	38-39
Q19	「その他」	39
Q21	「その他」	39-40
Q22	「その他」	40
Q23	「その他」	40
Q25	「その他」	40-41
Q26	「その他」	41
Q27	「その他」	41
Q28SQ1	「その他」	41
自由回答（感想・意見）		42-50

(参考資料) 調査票見本 51-62

あとがき (来場者アンケートを実施して) 63

はじめに（調査の実施概要と結果の概況）

本報告書は、2016年5月7日、及び8日に代々木公園イベント広場（東京都渋谷区）にて開催された「東京レインボープライド 2016」のステージイベント、ブース、パレードに
来場・参加された方々を対象として、特定非営利法人東京レインボープライド（共同代表：
山縣真矢・杉山文野）の協力を得て、駒澤大学文学部社会学科社会学専攻松信ひろみ研究
室（社会学演習Ⅰ）が実施した「レインボープライド 2016 来場者アンケート」の集計結果
である。本調査は、この度の催しに対する意見や感想を伺うことを主要な目的としてい
るが、加えて LGBT の方々の日ごろの生活や意識についても伺っている。なお、本調査は、
日本社会学会倫理綱領及び、日本家族社会学会倫理綱領に基づき、作成、実施し、「駒澤大
学『人を対象とする研究』に関する倫理委員会」の承認を得て実施された。

本調査の調査方法及び調査票の回収状況と結果の概要は以下の通りである。

1. 調査方法と対象者

- ① 「東京レインボープライド 2016」に来場された方を対象として、当日の会場入り口にてアンケート調査への協力を呼びかけ、協力してくださった方を対象とした。その場で自計式にて回答。調査票は 1050 票配布し、回収できたのは 279 票である（回収率 26.6%）。うち有効回答は、275 票（有効回答率 98.6%）である。
- ② 「東京レインボープライド 2016」のHPに①と同じ内容の web アンケートへのリンクを掲載し、5月7日から1ヶ月の回答期間を設けて、回答してもらった。回収票は 300 票であった。

2. 本調査の結果の概要

以下では、イベントに関する意見、及び LGBT の方々の生活にかかわる意識等を中心として、本調査の概要を検討する。

- ① 今回初めて来場したという回答者は約 46%であり、2回目が 22%と、昨年度と比較すると（昨年度は初めてが 57%、2回目が約 14%であった）、昨年が続いて来場したという人が増えたといえるだろう。来場のきっかけをみると、「以前から来場している」という割合が約 30%を占めている。次いで多いのは、「友人・知人の紹介」（約 16%）、「Twitter をみて」（約 16%）となっており、これらは昨年と同様の傾向である。
- ② 来場の目的として最も多かったのは、「ブースを見たり買い物をしたりするため」（約 59%）、「LGBT に関する様々な情報を得るため」（約 45%）と昨年と同様の傾向であった。
- ③ 会場での催し（ステージ、ブース、パレード）と会場に出店していた飲食店に対する満足度はいずれも「満足している」が 30%から 40%、「まあ満足している」が

30%から50%近くを占める。中でもパレードへの満足度が最も高く、「満足している」が約43%であった。会場での催しと出店していた飲食店に対する満足度は、昨年度と比較すると、いずれも「やや満足していない」「満足していない」という回答が若干増えている。特に満足度が下がっているのは、飲食店の屋台と、ブース、ステージである。飲食店の屋台については、「満足していない」7%、「やや満足していない」約19%（昨年度は「満足していない」3%、「やや満足していない」約12%）、ブースについては、「満足していない」約4%、「やや満足していない」約14%（昨年度は「満足していない」約2%、「やや満足していない」約5%）、ステージについては、「満足していない」約4%、「やや満足していない」約17%（昨年度は「満足していない」約3%、「やや満足していない」約12%）と、それぞれ、「やや満足していない」割合が5%から9%高くなっている。

- ④ 会場での催しと会場に出店していた飲食店に満足しなかった理由としては、「ステージ」については、「内容がよくわからない」（約17%）、「内容に関心がもてない」（約14%）、「ブース」については、「内容がよくわからない」（約15%）、「混雑しすぎている」（約14%）、「パレード」に関しては、「メッセージ性が弱い」（約14%）、「参加しづらい雰囲気がある」（約11%）、「飲食店」に関しては、「スペースが狭い」（約21%）、「混雑しすぎている」（約20%）であった。
- ⑤ レインボーウィークの期間に会場以外で行われていた催しに関しては、昨年度は焼く30%が「そのような催しがあることを知らなかった」と回答していたが、今回は、「知らなかった」という回答は約22%であり、昨年度よりも認知度高くなったといえる。ただ、「いずれにも参加しない」が30%、「未定」が20%となっており、これは昨年と同様の傾向であり、関心度が高くなったとはいえない。
- ⑥ LGBT関連の団体や活動への参加については、「参加している」が約35%であり、昨年度の約14%をかなり上回っている。本調査では、参加のきっかけなどは尋ねなかったが、今年度は来場が2回目という割合が増えていることから、昨年度の来場をきっかけとして、参加するようになったということも考えられるだろう。
- ⑦ 一方、LGBT関連の団体や活動に参加しない理由としては、「どのような団体や活動があるのかわからない」が約48%であり、昨年度の52%よりは減っているものの、依然としてわからないからかかわれないという傾向が伺われる。
- ⑧ 職業選択の基準として、LGBTに理解のある会社か否かという点に関しては、「やや考える」約37%、「大いに考える」25%と圧倒的に基準値として考えるという割合が高い。昨年度は、「やや考える」が約33%、「大いに考える」が約20%であり、昨年度に比べても高い割合となっている。
- ⑨ LGBT教育の経験に関しては、受けたことがある割合が21%と大変低い。具体的に受けた教育の内容としては、「当事者を招いて経験談などを聞く」と「LGBTという言葉に触れた程度」が同じ割合で約31%、ついで「具体的な事例や現状の説

明も受けた」が約 30%であった。教育現場では、まだまだ LGBT に関する教育はなされておらず、その内容もまちまちであることがわかった。

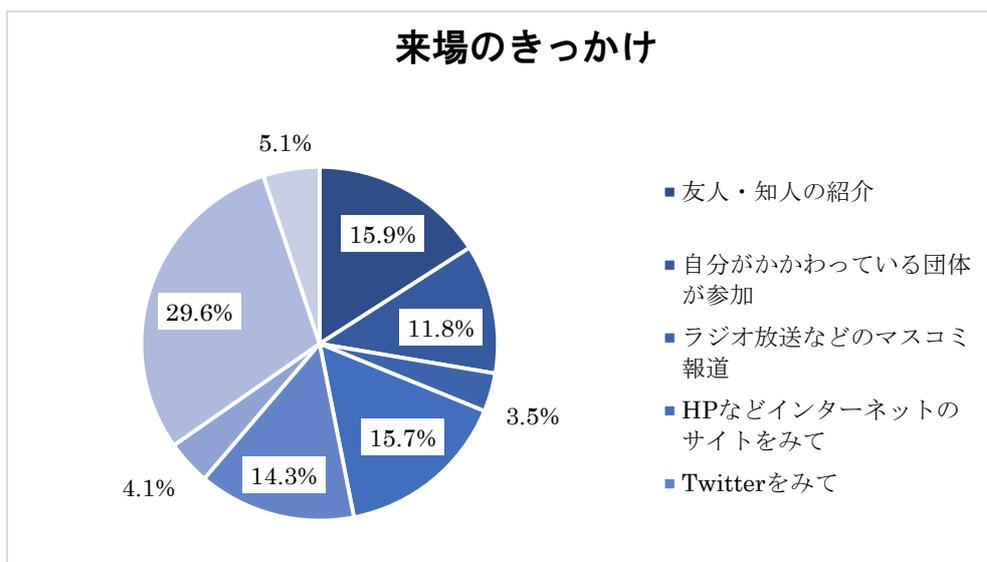
- ⑩ 職場での LGBT 研修に関しては、受けたことがある割合が 12%と教育よりも一層低い。しかし、受けたことがある場合のその内容は、「当事者を招いて経験談などを聞く」が圧倒的に多く、約 45%を占める。LGBT 研修をとりいれようとする職場の場合には、本格的に取り組んでいるという姿勢が伺われる。
- ⑪ LGBT 教育及び研修に関して希望は、教育に関しては約 96%があったほうがいいと回答しており、職場での研修は約 86%があったほうがいいと回答している。その内容としては、どちらについてもほぼ同じ傾向であり、「当事者を招いて経験談などを聞く」が過半数を占め、次いで「具体的な事例や現状について説明する」が約 35%である。
- ⑫ 商品購入の基準として、その商品を製造している会社が LGBT に理解のある会社か否かを配慮するかという点に関しては、LGBT 当事者の方も LGBT でない方も配慮しないという回答が過半数を占めていた。
- ⑬ 新宿 2 丁目の LGBT の方が多く集まるお店の利用については、LGBT 当事者の方の場合、利用したことがない方が 40%程度いるものの、「年に 1, 2 回」が約 26%、「2, 3 ヶ月に 1 回」約 15%、「月に 1, 2 回」約 12%と、頻度は異なるが利用している傾向が伺える。しかし、LGBT ではない方は、約 78%が利用しておらず、利用する場合も、「年に 1, 2 回」が約 17%という結果だった。昨年と比較すると、LGBT 当事者の方の場合、「年に 1, 2 回」の割合が増加（昨年は約 16%）、LGBT でない方の場合、同じく「年に 1, 2 回」の割合が増加（昨年は約 13%）している。
- ⑭ 同性パートナーシップ証明書の利用については、「必ず利用する」約 13%、「たぶん利用する」約 44%と、利用への意向が 50%を超えていた。昨年は、利用への意向が 70%を超えており、20%程度下がっている。利用したい理由としては、「当然の権利である」が最も多く約 37%、「パートナーや子どもの病院で困ったことがある」、「パートナーであることを公的に証明してもらうことがうれしい」がそれぞれ約 29%であった。一方、利用しない理由としては、「これまでに困ったことがない」約 15%、「結婚はしたくない」約 16%、「実効力がない」約 15%であった。
- ⑮ 同性カップルに必要なと思う法的保障制度については、「異性間の法的婚姻制度と同じ同性間での法的婚姻制度」が約 71%と最も多かった。
- ⑯ LGBT であるために日常生活で感じる不便、不自由は、「人間関係」については「よくある」約 23%、「ときどきある」約 46%（前年度は「よくある」39%、「ときどきある」約 37%）、「社会保障制度」については「よくある」約 27%、「ときどきある」約 28%（前年度は「よくある」約 24%、「ときどきある」約 30%）、「生活環境」については「よくある」約 20%、「ときどきある」約 33%（前年度は「よくあ

る」約 29%、「ときどきある」約 32%) であった。昨年度と比較して、「よくある」と「ときどきある」をあわせてみた場合、あまり大きな変化はないといえる。

- ⑰ 回答者の年齢は 20 歳前後と 35 歳から 45 歳が最も多い。また、渋谷区の居住者が 36%と最も多く、渋谷区以外の都内からの来場者も合わせると 90%近くが都内からの来場であった。
- ⑱ 家族構成は、一人暮らしが最も多く、次いで両親、パートナーとの同居であった。
- ⑲ 生涯をともにするパートナーができたときに望むことについては、最も多かったのが「二人で落ち着いて暮らすことのできる住まいを探す」が約 75%、次いで、「両親や家族に二人の関係を理解してもらう」約 60%、「友人に二人の関係を理解してもらう」が約 58%であった。
- ⑳ 来場者の 70%が LGBT の方であり、さらに、「トランスジェンダー」約 15%、「ゲイ」約 28%、「レズビアン」約 15%、「バイセクシュアル」約 10%であった。セクシュアリティの認識時期は「中学生」約 20%と最も多かったものの、「小学校入学前」約 19%、「小学校低学年」約 14%、「小学校高学年」約 17%、と小学校以前が多かった。一方「高校」約 13%、「大学生」約 14%と、多様な時期に認識されていることがわかった。
- ㉑ カミングアウトについては、一部の人にだけしている方が約 79%と最も多く、カミングアウトしている相手は「学校時代の友人」が最も多くて約 64%、次いで「母親」約 40%、「パートナー」約 34%、「兄弟姉妹」約 31%であった。親族であっても「父親」は比較的低い傾向にあり、これらの傾向は昨年と同様である。

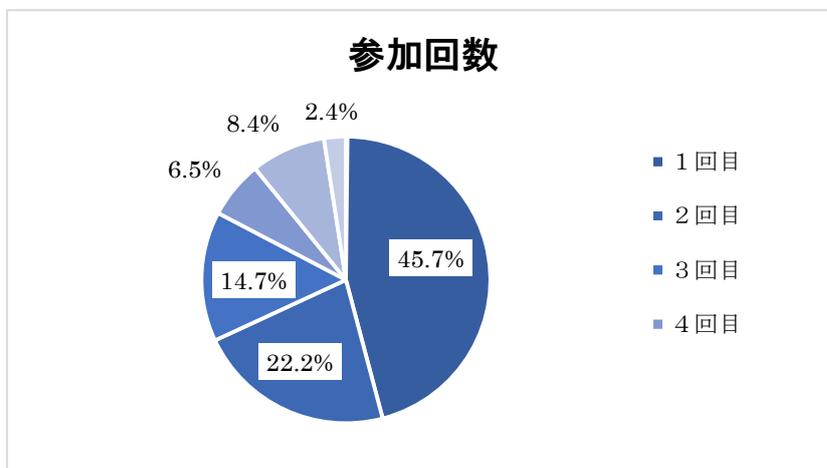
第1章 アンケート集計結果

Q1 今回の東京レインボープライド 2016 を知ったきっかけについて、あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



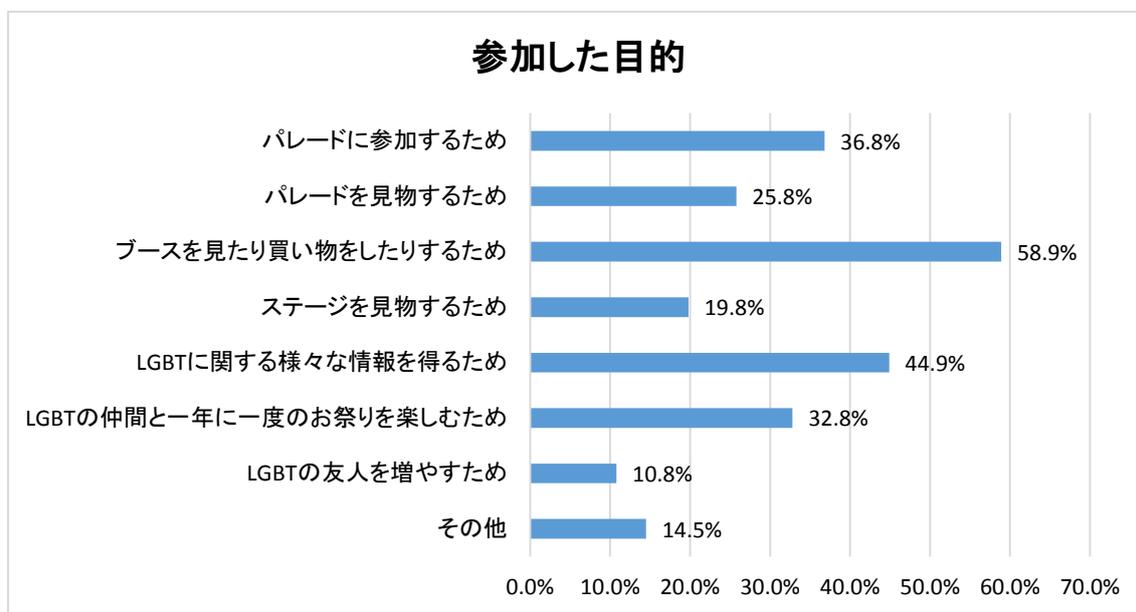
来場のきっかけで一番多いのは「以前からきている」(29.6%)であった。続いて、「友人・知人の紹介」と「HPなどのインターネットのサイトをみて」が15.9%と15.7%であり、この3項目で6割を占めた。また「ラジオなどのマスコミ報道」(3.5%)、「たまたま近くをとおりがかった」(4.1%)と少ない結果となった。「その他」の具体的内容は別途記載

Q2 東京レインボープライド（プライドパレード）への参加は今回で何回目ですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



参加回数で一番多かったのが1回目であり45.7%、初めて参加する人が多く見られた。その次に多かったのが2回目であった。

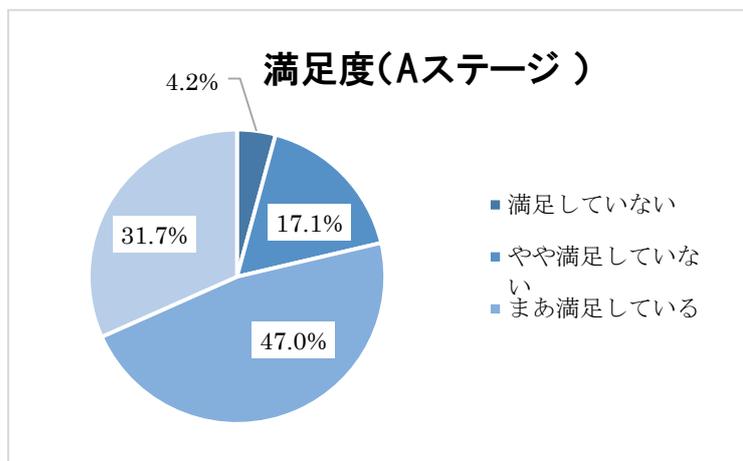
Q3 あなたがこの催しにいらっしゃった目的について、主なものを順に三つまで、下の選択肢の中から選んで（ ）内に番号を記入してください。



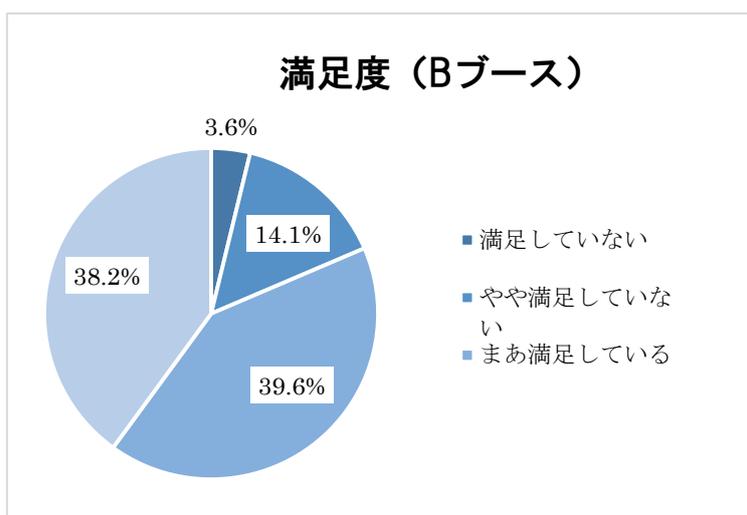
(注) 複数回答であるため、全てを足して100%とはならない。

「ブースを見たり買い物をするため」が最も多く、回答者の約6割がこの目的で来場していた。順に「LGBTに関する様々な情報を得るため」(44.9%)、「パレードに参加するため」(36.8%)、「LGBTの仲間と一年に一度のお祭りを楽しむため」(32.8%)、「パレードを見物するため」(25.8%)が主な目的といえるだろう。「その他」の具体的内容は別途記載

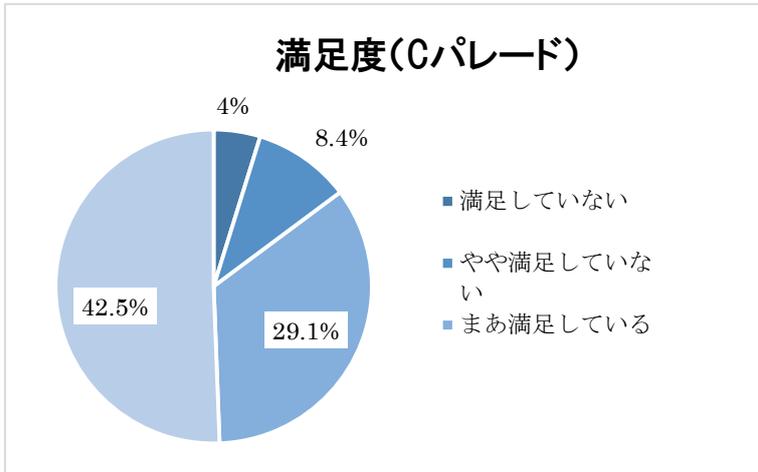
Q4 会場でのイベントにはどの程度満足しましたか。AからDに関して、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



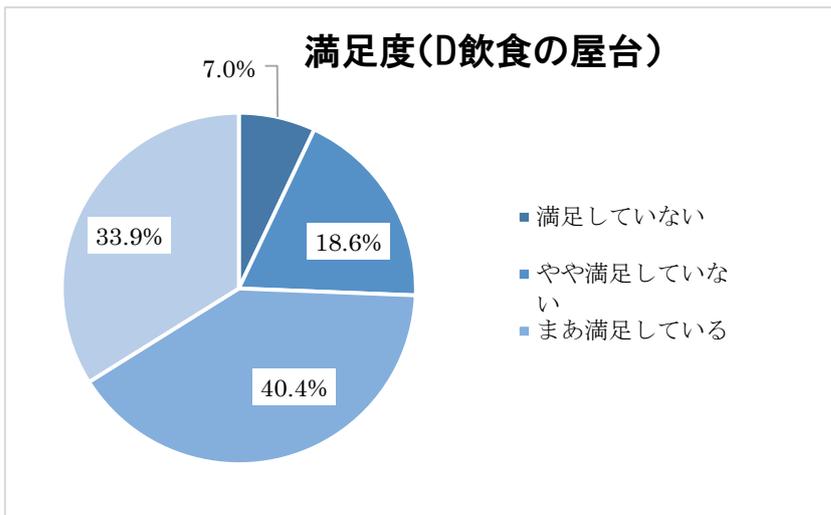
ステージについては、「やや満足していない」(17.1%)と「満足していない」(4.2%)が合わせて約 20%であったが、「まあ満足している」(47.0%)と「満足している」(31.7%)であり、80%近くが満足している傾向がみられる。



ブースについては、「満足していない」が 3.6%、「やや満足していない」が 14.1%、「まあ満足している」が 39.6%、「満足している」が 38.2%であり、やはり 80%近くが満足している傾向がみられた。



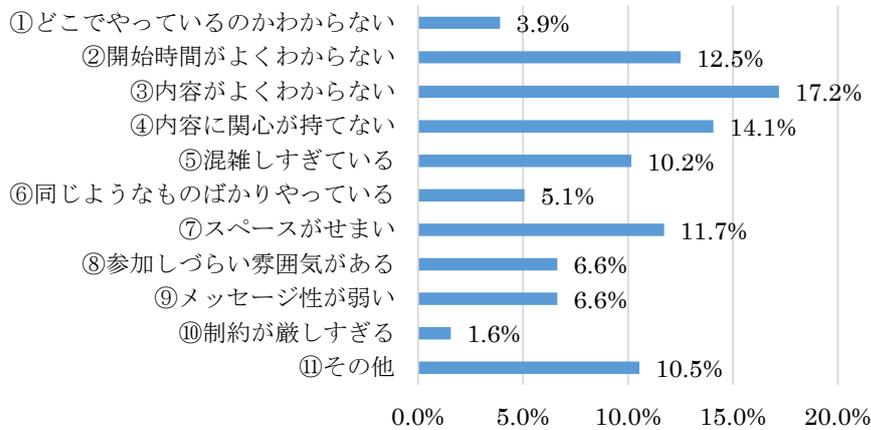
パレードに関しては、「満足していない」は4%、「やや満足していない」8.4%であり、満足していない割合は少なかった。「まあ満足している」が29.1%、「満足している」が42.5%と、満足していた割合が高い。



飲食の屋台に関しては、「満足していない」(7.0%)、「やや満足していない」が(18.6%)、「まあ満足している」が(40.4%)「満足している」(33.9%)と、飲食の屋台には満足していない割合がやや多くみられた。

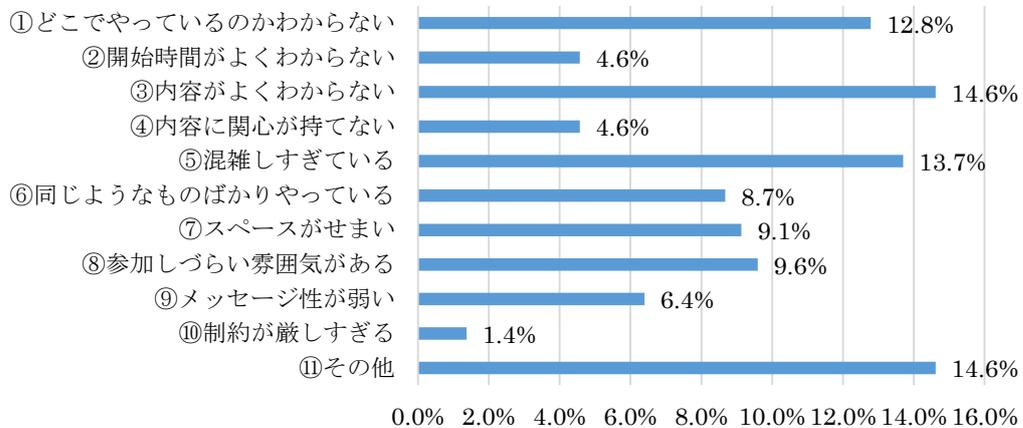
Q4SQ1 Q5 でそれぞれ「1. 満足していない」、「2. やや満足していない」と答えた方に伺います。どのような点で満足しなかったのか、その理由として当てはまるものを3つまで○をつけてください。

満足しなかった理由（Aステージ）



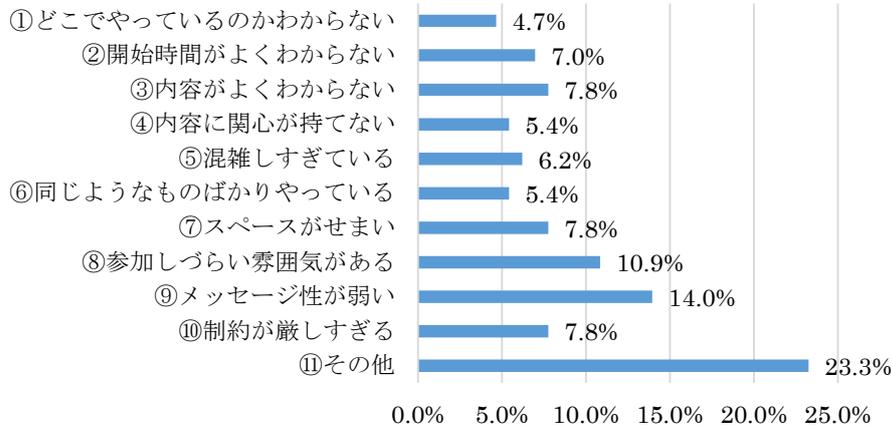
ステージに満足しなかった人は、その理由について「内容がよくわからない」（17.2%）や「開始時間がわからない」（12.5%）、「内容に関心がもてない」（14.1%）と答えた人が多かった。

満足しなかった理由（Bブース）



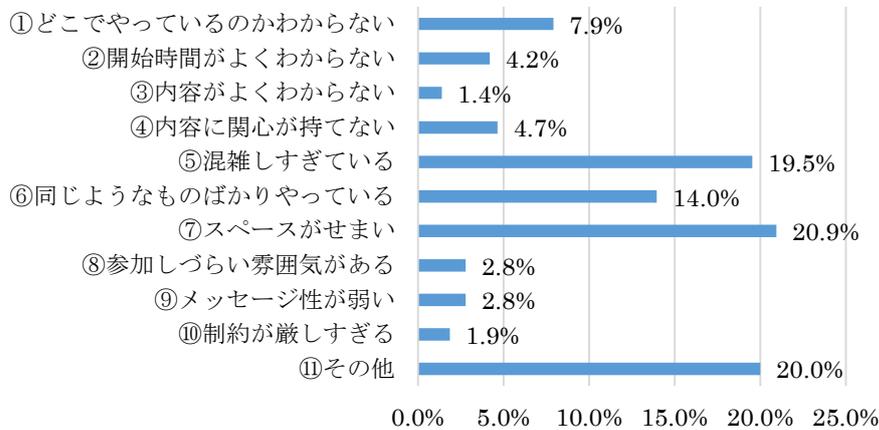
ブースについても「内容がよくわからない」（14.6%）の割合が最も高く、また「混雑しすぎている」（13.7%）も多かった。

満足しなかった理由（Cパレード）



パレードについては、満足度も一番高かったため、全体的に数は少なかったが、「メッセージ性が弱い」と答えた割合がその中では14.0%と一番多かった。

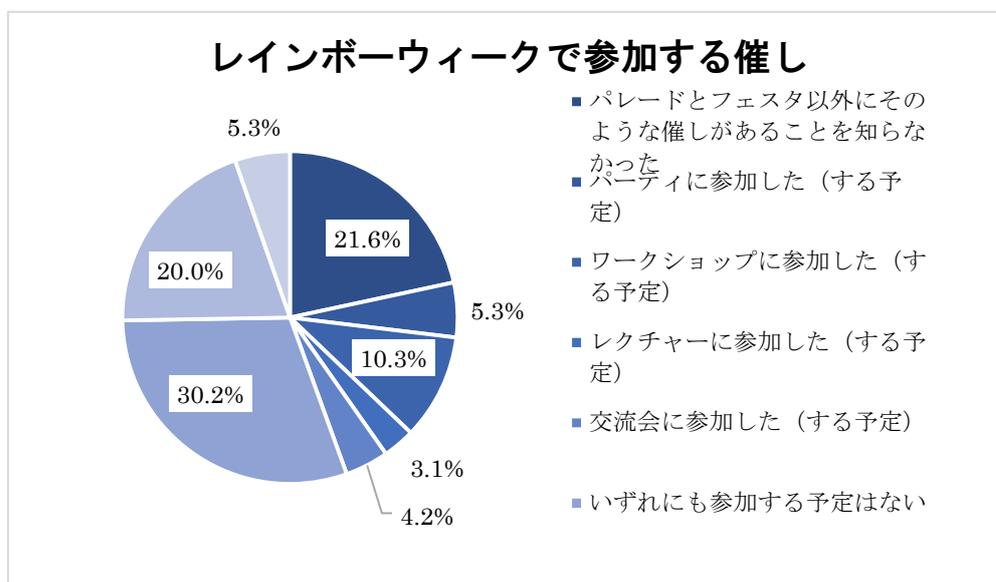
満足しなかった理由（D飲食の屋台）



飲食の屋台については、「スペースがせまい」（20.9%）や「混雑しすぎている」（19.5%）という割合の人が圧倒的に多かった。

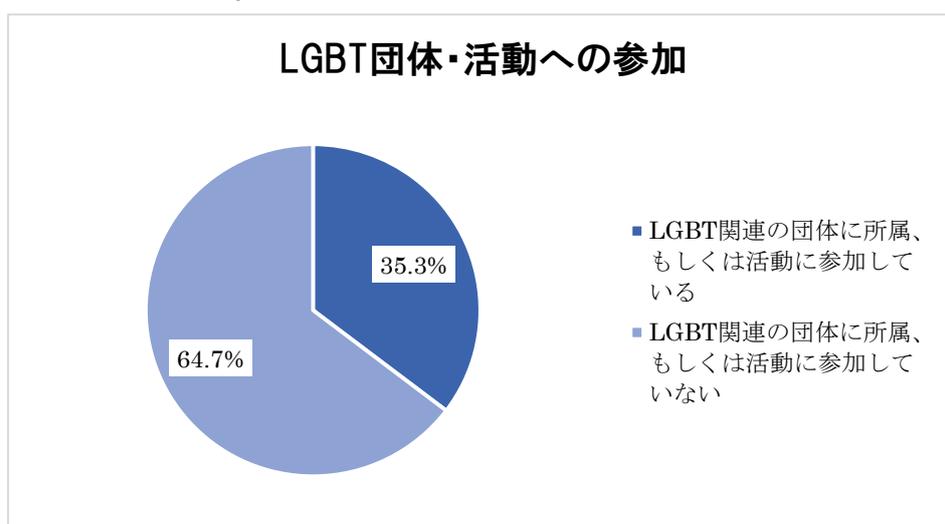
Q5 レインボーワークの期間は、この会場でのパレードとフェスタのほか、パーティやワークショップなど様々な催しが行われています。あなたはこれらにも参加します（した）

か。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



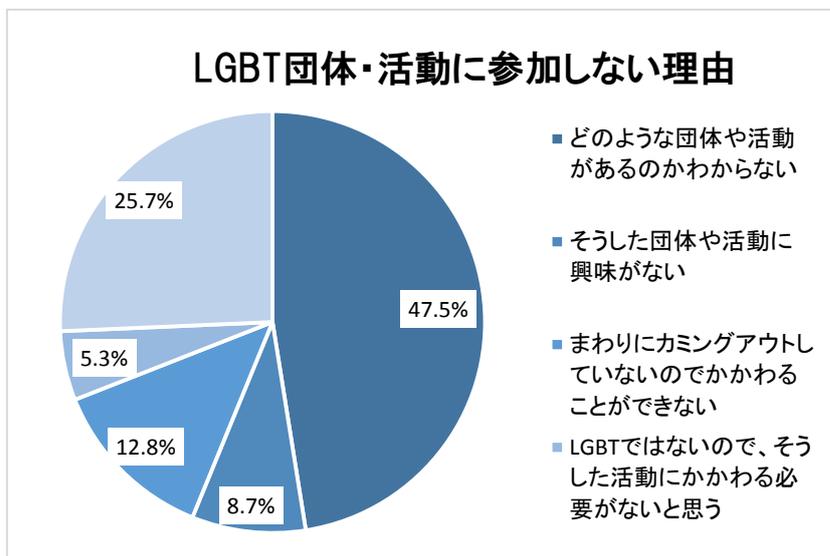
最も多い回答は、「いずれにも参加する予定はない」(30.2%)であり、「パレードとフェスタ以外にそのような催しがあることを知らなかった」(21.6%)という回答も多く見られた。イベントそのものの認知度は上がってきてはいるが、細かな催しについては知らない人もいたようだ。パーティ、ワークショップ、レクチャー、交流会に参加した(する)と答えた割合は23.3%と少ない結果となった。「その他」の具体的内容は別途記載

Q6 あなたは LGBT 関連の団体や活動に参加していますか？あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



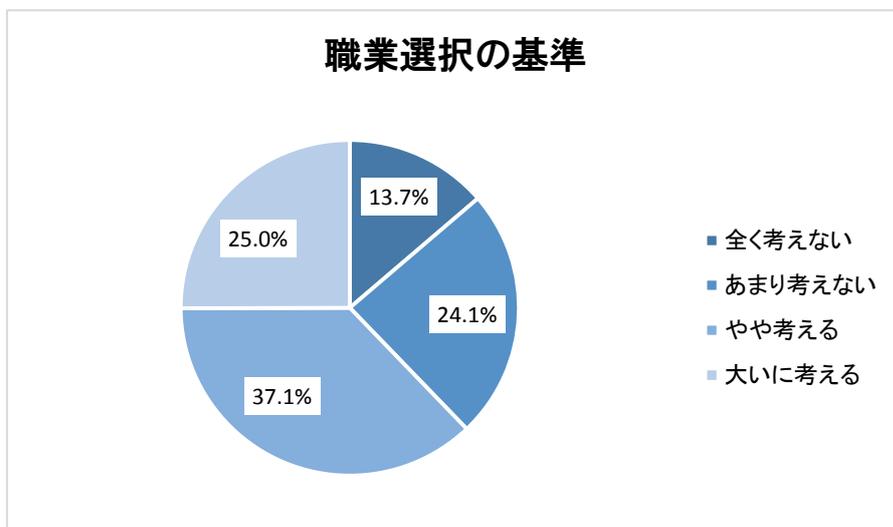
LGBT 団体・活動への参加について、「LGBT 関連の団体に所属もしくは活動に参加していない」という割合は64.7%であり、「参加していない」割合が過半数を占めている。

Q6SQ1 Q6で「2. LGBT 関連の活動はしていない」と回答された方に伺います。そうして活動をされていないのはなぜですか。もっともあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



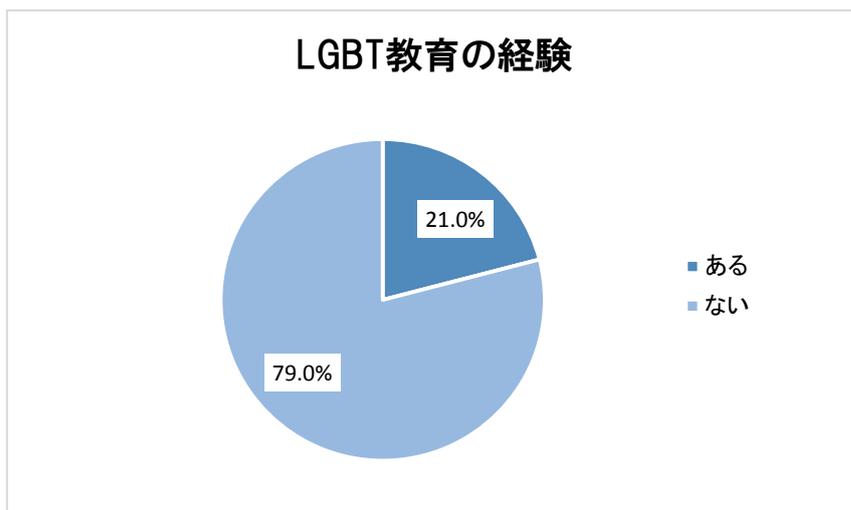
LGBT 団体の活動に参加しない理由としては、「どのような団体や活動があるのかよくわからないから」という人の割合が最も高く、約 47%と半数を占めた。ついで「LGBT ではないので、そうした活動にかかわる必要がないと思う」割合が約 26%、そのほかは 10%前後という結果になった。（「その他」の具体的内容は別途記載）

Q7 あなたは、仕事を選択する際に、LGBT に理解のある職場であるかどうかを選択の基準のひとつとして考えますか？現在学生の方は、今後の就職活動を想定して、また現在職をお持ちの方はこれまでの職場を決めた際のことを思い出して、あてはまる番号に一つだけ○をつけて下さい。



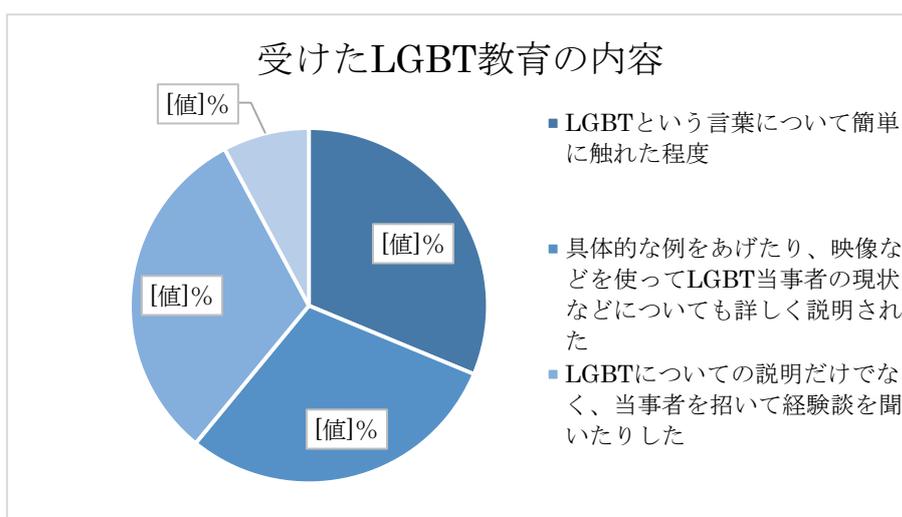
職業選択の基準として、LGBT への理解の有無を尋ねたところ、「やや考える」が 37.1%、「考える」という割合が 25%と、考えるという割合が半数以上を占めた。

Q8 あなたは、これまでに学校で LGBT に関する授業を受けたことがありますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



LGBT 教育の経験があると答えた人は、約 21%、ないと答えた人は約 80%という結果になった。

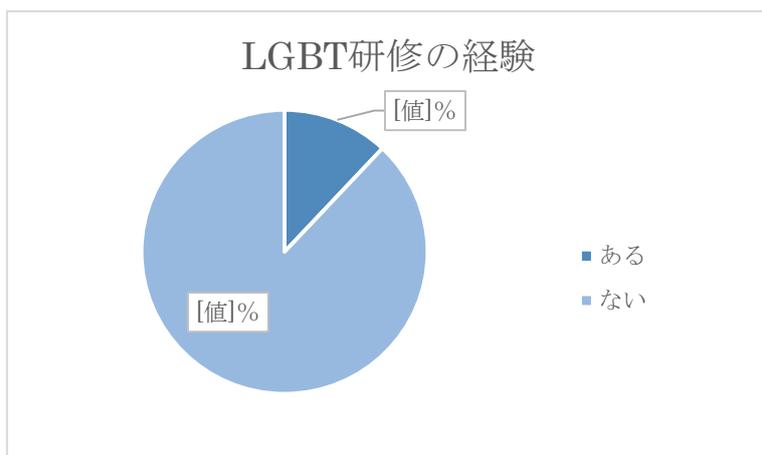
Q8SQ1 Q8で「1.ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた授業はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



受けた LGBT 教育の内容を尋ねたところ、「LGBT という言葉について簡単に触れた程度」、「具体的な例をあげたり、映像などを使って LGBT 当事者の現状などについても詳しく

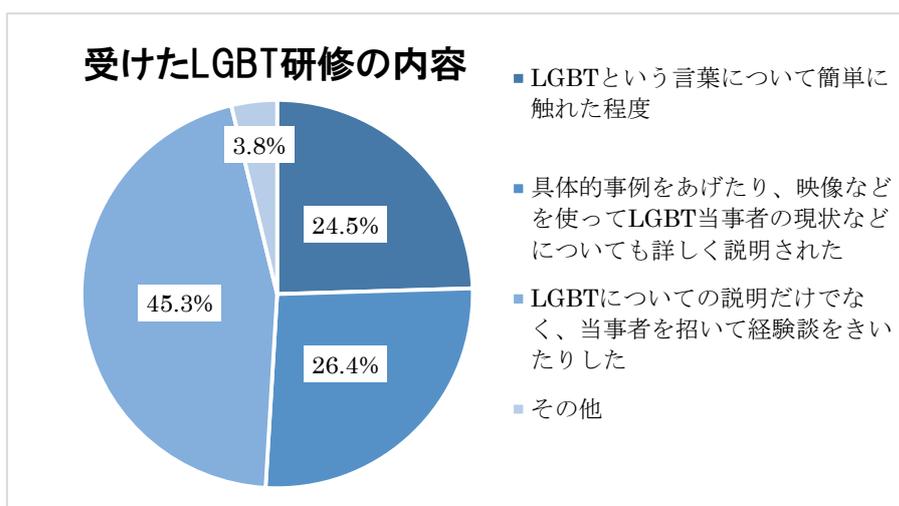
く説明された」、「LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談をきいたりした」という3項目がそれぞれ30%とほぼ同じ割合であった。LGBT 教育を実施している学校は少なく、またその内容もまちまちであることがわかった。（「その他」の具体的内容は別途記載）

Q9 あなたは、これまでに職場で LGBT に関する研修を受けたことがありますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



職場での LGBT 研修の経験に関しては、「学生もしくは職場経験がない」という人 19.2%を除いて集計したところ、「経験がある」は 12%、「経験がない」は 88%と、学校での LGBT 教育の経験よりも経験した割合が低い傾向がみられた。

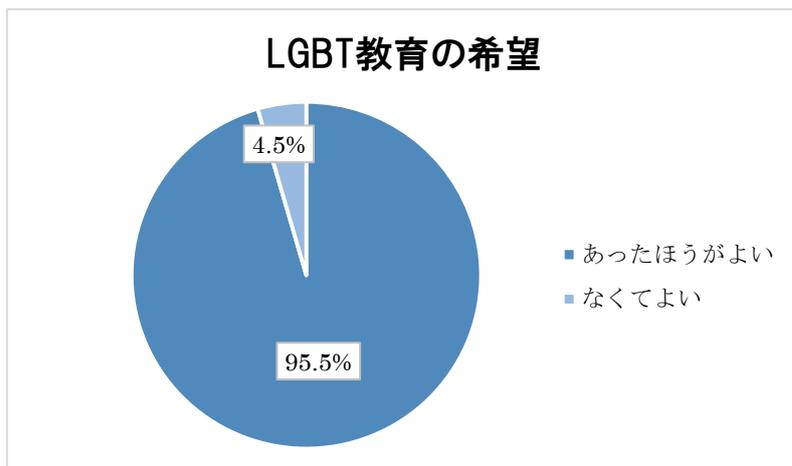
Q9SQ1 Q9 で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた研修はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



受けた LGBT 研修の内容についてたずねたところ、「LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談をきいたりした」の回答の割合が最も高く 45.3%と半分近くを占め

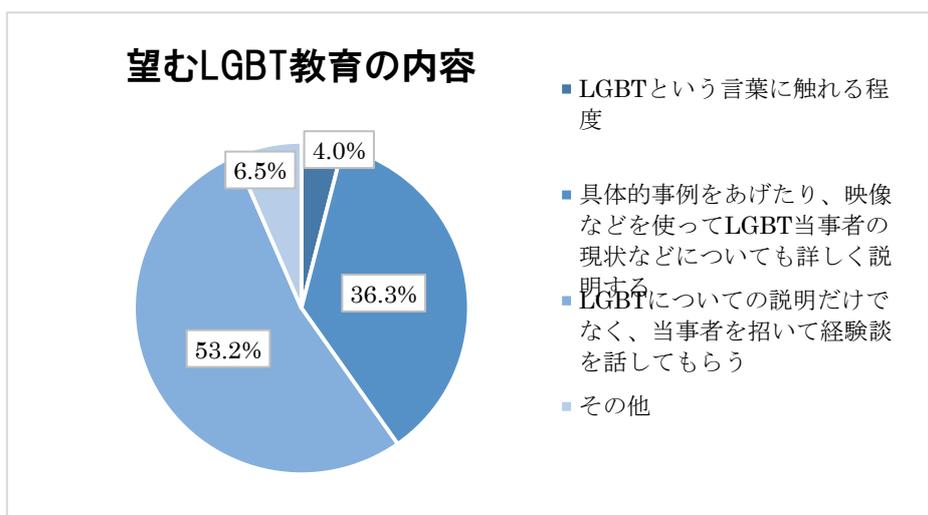
た。続いて、「具体的事例をあげたり、映像などを使って LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された」が 26.4%となった。さらにほぼ同等の割合で「LGBT という言葉について簡単に触れた程度」が 24.5%であった。（「その他」の具体的内容は別途記載）

Q10 あなたは、学校で LGBT に関する授業があったほうがよいと思いますか。当てはまる番号に一つだけ○をつけてください。



学校で LGBT に関する授業があったほうがよいかとたずねたところ、「あったほうがよい」が 95.5%、「なくてよい」が 4.5%という結果であった。多くの人が学校での LGBT 教育を望んでいることがわかる。

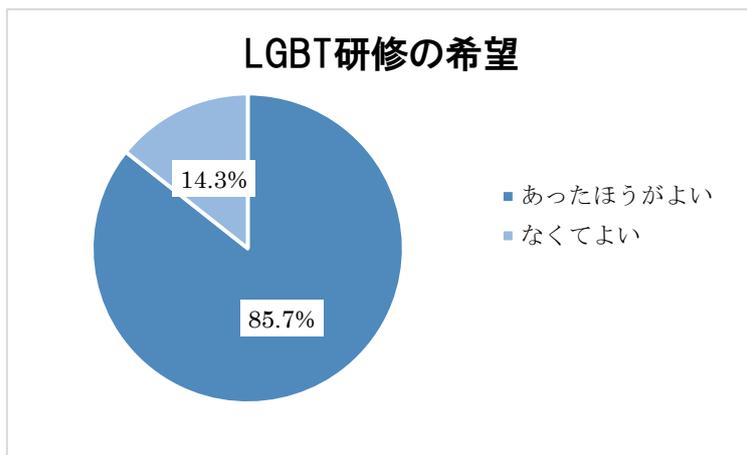
Q10SQ1 Q10で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



Q10において、学校での LGBT 教育を希望した（「あったほうがよい」）人に対し希望する LGBT 教育の内容をたずねたところ、最も多かったのは「LGBT についての説明だけで

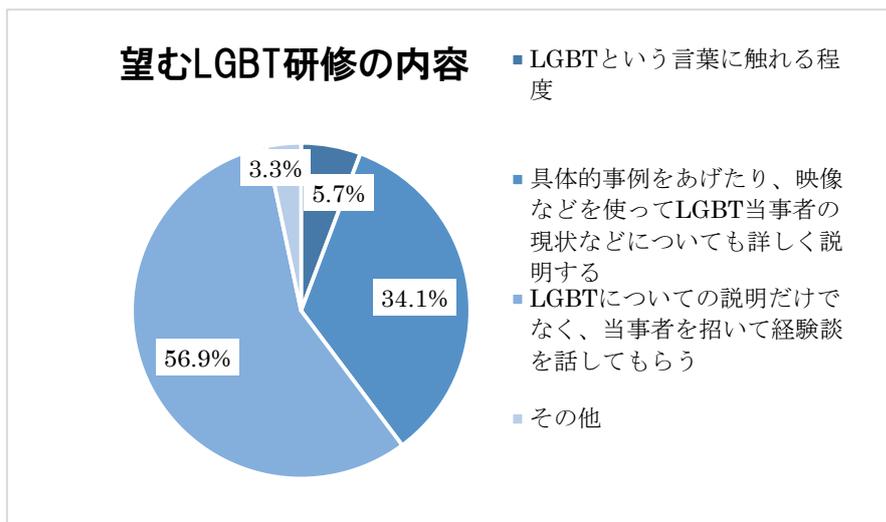
なく、当事者を招いて経験談を話してもらう」で 53.2%、ついで「具体的事例をあげたり、映像などを使って LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明する」36.3%、「LGBT という言葉に触れる程度」4.0%という結果になった。半数以上の方が LGBT の教育について当事者の経験談を望んでいることがわかる。（「その他」の具体的内容は別途記載）

Q11 あなたは、職場で LGBT に関する研修があったほうがよいと思いますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



職場での LGBT に関する研修があったほうがよいかたずねたところ、「あったほうがよい」85.7%、「なくてよい」14.3%という結果になった。

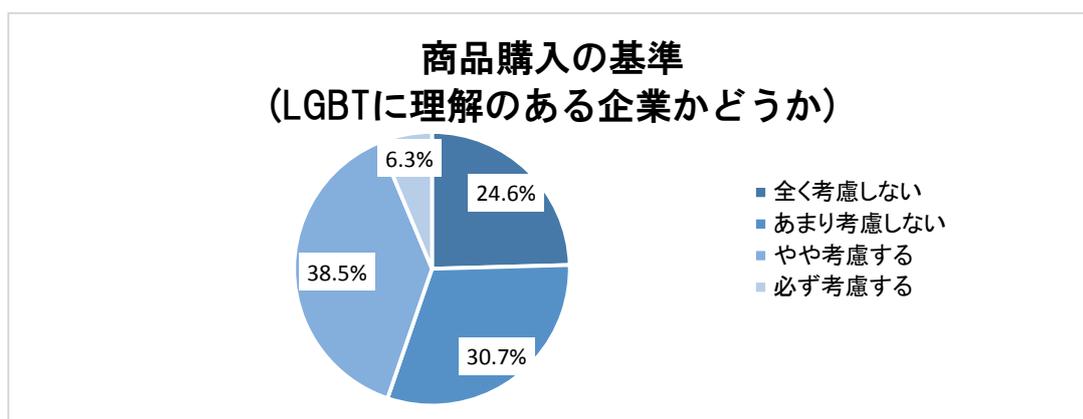
Q11SQ1 Q11 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



望む LGBT 研修の内容をたずねたところ、最も多かったのが「LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談を話してもらう」で 56.9%と半数を占め、ついで「具体的事例をあげたり、映像などを使って LGBT 当事者の現状についても詳しく説明する」

34.1%、「LGBT という言葉について触れる程度」5.6%、「その他」3.3%だった（「その他」の具体的内容は別途記載）

Q12 あなたは、商品を購入する際に、その商品を製造している会社が LGBT に理解のある企業かどうかを考慮して購入しますか(例えば、同じ主留意の複数の商品から 1 つを選ぶ際に、多少価格が高くても、LGBT へ理解を示している企業の製品を買うなど)。あてはまる番号一つに○をつけてください。



商品購入の基準として、LGBT に理解がある企業かどうかは、「全く考慮しない」が約 24.6%、「あまり考慮しない」が約 30.7%、「やや考慮する」が約 38.5%、「必ず考慮する」が約 6.3%であった。

この回答について、LGBT 当事者であるか否かによって比較したものが表 1 である。

LGBT 当事者の回答は、「全く考慮しない」は約 24.1%、「あまり考慮しない」は約 31.3%、「やや考慮する」は約 37.6%、「必ず考慮する」は約 7.0%であった。他方、LGBT 当事者ではない場合、「全く考慮しない」は約 28.9%、「あまり考慮しない」は約 25.6%、「やや考慮する」は約 41.3%、「必ず考慮する」は 4.1%であった。

表 1 LGBTであるか否か別にみた商品の購入基準(LGBTへの理解ある企業か否か)

	商品購入の基準 (LGBTへ理解のある企業か否か)				合計
	全く考慮し ない	あまり考慮 しない	やや考慮す る	必ず考慮す る	
LGBTかどうか LGBTである 度数	96 24.1%	125 31.3%	150 37.6%	28 7.0%	399 100.0%
LGBTではない 度数	35 28.9%	31 25.6%	50 41.3%	5 4.1%	121 100.0%

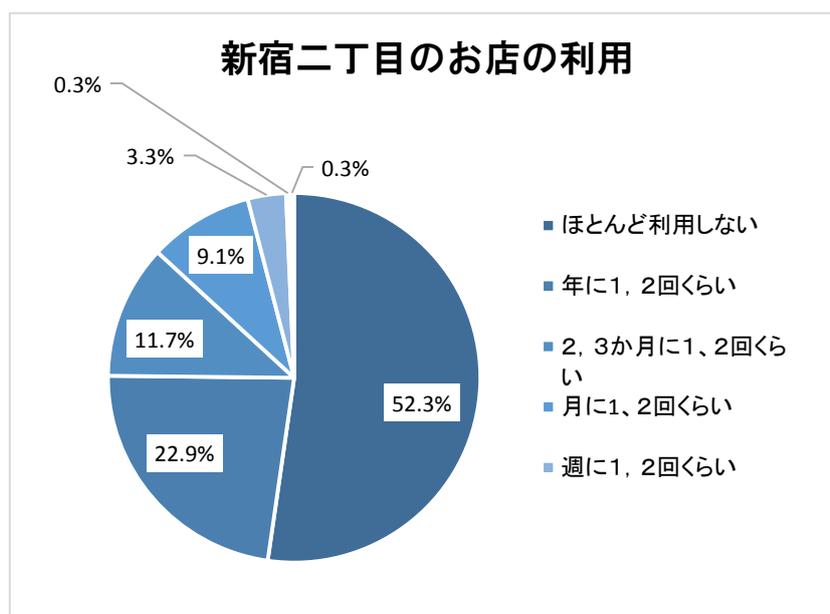
合計	度数	131	156	200	33	520
		25.2%	30.0%	38.5%	6.3%	100.0%

χ^2 検定 P=N.S.

*クロス集計表作成にあたり、欠損値の発生により、合計%に若干の差が生じている。

P=N.S.であり、統計的に有意な差は見られないが、LGBT 当事者である場合も、当事者ではない場合も、「考慮する」割合と「考慮しない」割合は半々程度であることが分かる。この結果をみるに、LGBT 当事者であるからといって、商品購入選択の基準として、LGBT への理解度を重要視しているとは限らないと言える。

Q13 あなたは、新宿2丁目のLGBTの集まるお店をどのぐらいの頻度で利用しますか。当てはまる番号に一つだけ○をつけてください。



最も多かった回答は「ほとんど利用しない」で、約 52.3%(299 人)であった。「年に 1,2 回くらい」が約 22.9%(131 人)、「2,3 ヶ月に 1,2 回くらい」が約 11.7%(67 人)、「月に 1,2 回くらい」が約 9.1%(52 人)、「週 1,2 回くらい」が約 3.3%(19 人)、「週に 3,4 回くらい」が約 0.3%(2 人)、「ほぼ毎日」が約 0.3%(2 人)であった。なお、無回答(欠損値)は除き、有効回答者数は 572 人であった。新宿二丁目の店の利用頻度は全体的に低い傾向にあることが見てとれる。

この回答について、LGBT 当事者であるか否かで比較したものが、表 2 である。

表 2 LGBTであるか否か別にみた新宿2丁目のお店の利用頻度

			2丁目のお店の利用頻度					合計	
			ほとんど 利用 しない	年に1, 2 回	2, 3ヶ月 に1, 2回	月に1, 2 回	週に1 ~4回		ほぼ毎 日
LGBTであ るか否か	LGBTであ る	度数	164 41.3%	104 26.2%	61 15.4%	47 11.8%	19 4.8%	2 0.5%	397 100.0%
	LGBTでは ない	度数	94 77.7%	20 16.5%	4 3.3%	2 1.7%	1 0.8%	0 0.0%	121 100.0%
合計		度数	258 49.8%	124 23.9%	65 12.5%	49 9.5%	20 3.9%	2 0.4%	518 100.0%

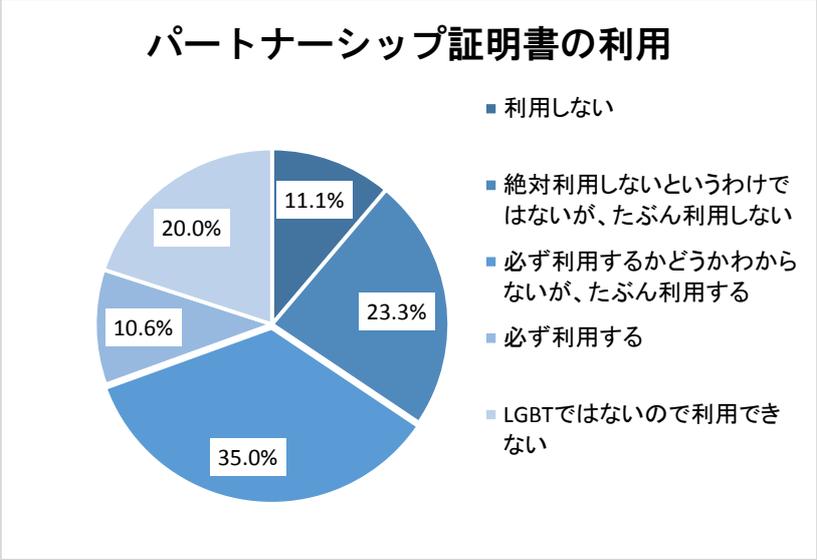
χ^2 検定 P<.00

*クロス集計表作成にあたり、欠損値の発生により、合計%に若干の差が生じている。

LGBT 当事者の回答は、「ほとんど利用しない」が約 41.3%、「年に 1, 2 回」が約 26.2%、「2, 3 ヶ月に 1, 2 回」は約 15.4%、「月に 1, 2 回」は、約 11.8%、「週に 1~4 回」は約 4.8%、「ほぼ毎日」は 0.5%であった。一方 LGBT 当事者でない場合、「ほとんど利用しない」が約 77.7%、「年に 1, 2 回」が約 16.5%、「2, 3 ヶ月に 1, 2 回」が約 3.3%、「月に 1, 2 回」が約 1.7%、「週 1~4 回」が約 0.8%、「ほぼ毎日」が約 0%であった。

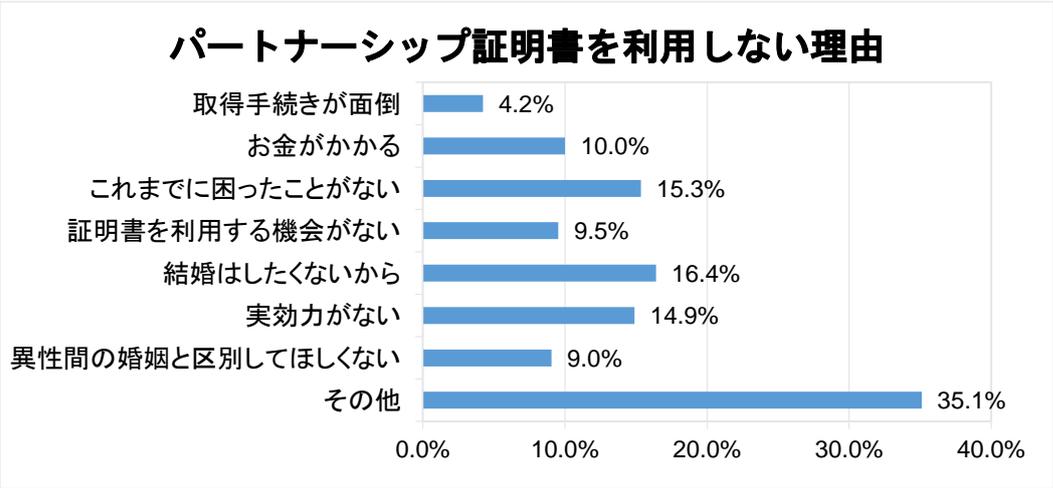
LGBT 当事者で新宿 2 丁目のお店をほとんど利用しない人は 4 割程度であるのに対し、当事者ではない場合、7 割強がほとんど利用していない。依然として新宿 2 丁目は当事者が行く場所であるとの認識が強いのかもしれない。また、新宿 2 丁目の店では当事者以外の入店を断っている(例えばゲイバーでは女性に限って入店できない場所がある)場合もあるため、このことが、当事者でない人の利用頻度に影響を及ぼしていることも考え得る。

Q14 昨年、渋谷区では、同性パートナーシップ証明書が、世田谷区では、パートナーシップ宣誓書が発行されるようになりました。あなたがお住まいの自治体でもこのような証明書が発行されることになった場合、あなたは利用したいと思いますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



「利用しない」が約 11.1%(63 人)、「絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない」が約 23.3%(132 人)、「必ず利用するかどうかわからないが、たぶん利用する」が約 35%(198 人)、「必ず利用する」が約 10.6%(198 人)、「LGBT ではないので利用できない」が約 20%(113 人)であった。

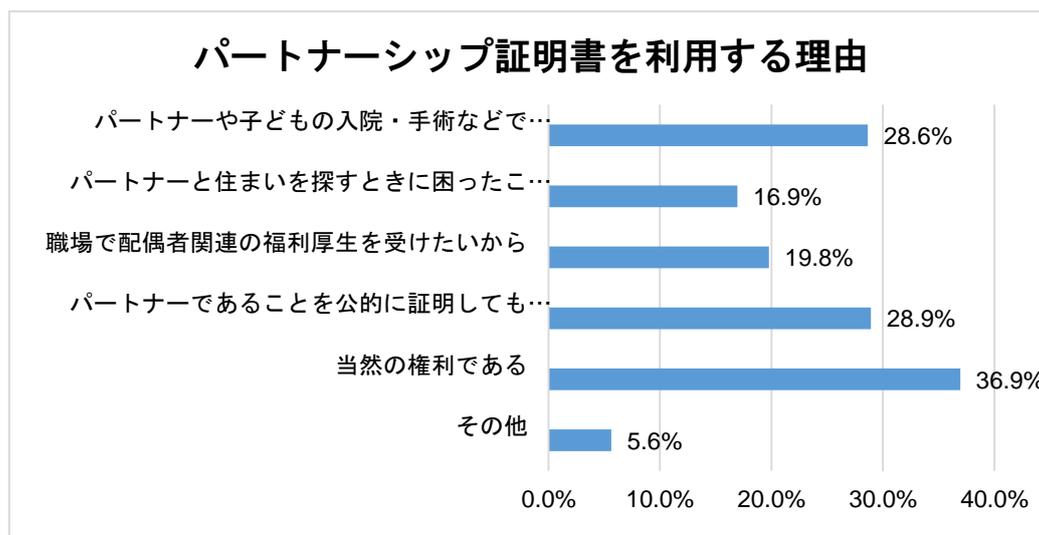
Q14SQ1 Q14 で「1. 利用しない」「2. 絶対利用しないというわけではないがたぶん利用しない」と回答された方に伺います。利用しないのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



最も多かった回答は、「その他」で約 35.1%であった。以下、順に「結婚はしたくないから」が約 16.4%、「これまで困ったことがないから」が約 15.3%、「表面的なもので実効力はないから」が約 14.9%、「証明書発行にお金がかかるから」が約 10%、「取得手続きが面倒だから」が約 4.2%、「異性間の婚姻と区別してほしくないから」約 9%であった。その他

を除くと回答はほぼ均等に分散していることが見て取れる。

Q14SQ2 Q14で「3. 必ず利用するかどうかわからないが、たぶん利用する」「4. 必ず利用する」と回答した方に伺います。利用しようと思うのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

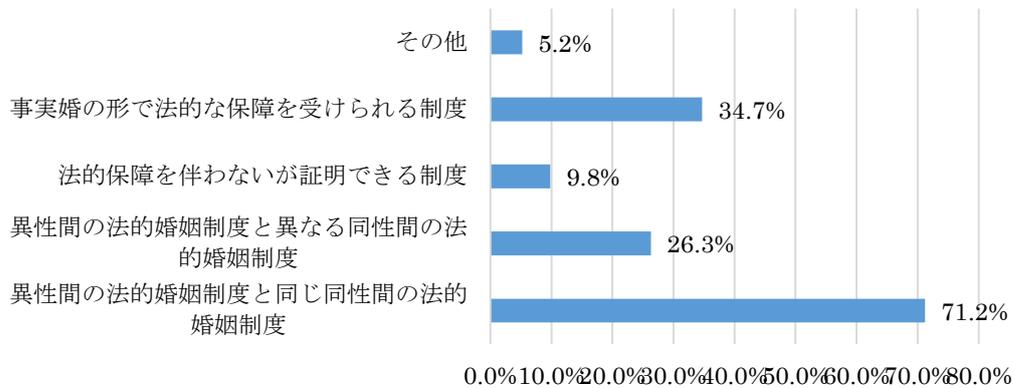


パートナーシップ証明書を利用する理由として、最も多かった回答は「当然の権利である」で、約 36.9%であった。以下、「パートナーであることを公的に証明してもらいたい」が約 28.9%、「パートナーや子どもの入院・手術などで困ったことがあった」が約 28.6%、「職場で配偶者関連の福利厚生を受けたいから」が約 19.8%、「パートナーと住まいを探すときに困ったことがあった」が約 16.9%、「その他」は約 5.6%であった。

以上の結果をみるに、パートナーシップ証明書の利用を希望する理由としては、配偶者控除を受けたいといった実務的な内容よりも、権利意識にかかわる内容が多い。パートナーシップ証明書はあくまで自治体の発行するもので、現行の民法に定める(異性間の)婚姻とは法的拘束力に差がある。それゆえ実務的な効果を期待するというより、権利が公的な機関(自治体レベルとはいえ)で認められたという点を重要視しているのではないだろうか。

Q15 海外では、同姓の法律婚が認められたり、銅製カップルの法的保障が進められたりしています。日本でも渋谷区と同姓パートナーシップ証明書や世田谷区のパートナーシップ宣誓書が施行されましたが、法的な保障制度ではありません。あなたは、日本においても、法的な保障制度が必要だと思いませんか。

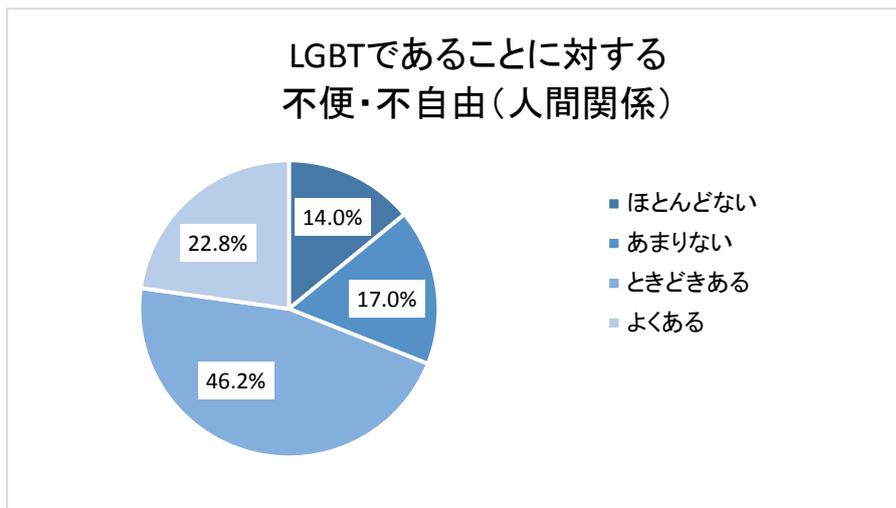
必要だと思う保障制度



最も必要だと回答した人が多かったのは、「異性間の法的婚姻制度と同じ同性間の法的婚姻制度」であり 71.2%と、次に多かった選択肢と比較して 35%以上多い人が支持した。次に多かったのは事実婚の形で法的な保障を受けられる制度であって、34.7%であった。（「その他」の具体的内容は別途記載）

Q16 あなたは日常生活において、LGBT であるからということで不便、不自由を感じることはありますか。

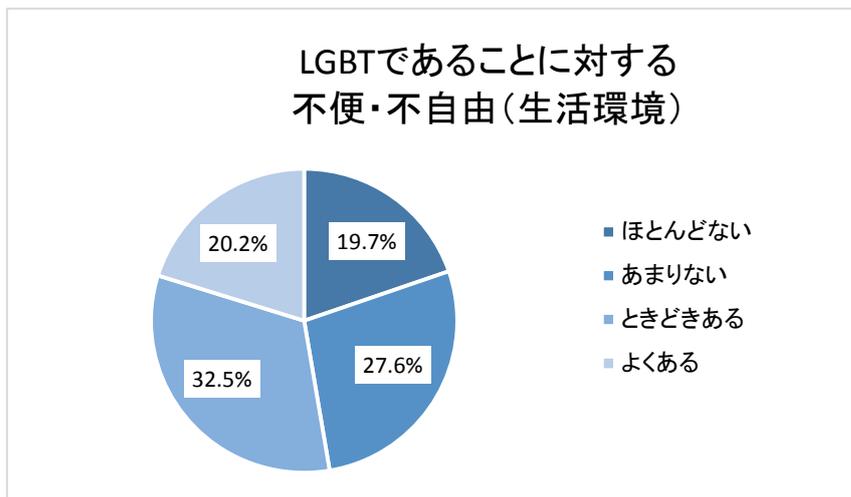
① 人間関係



日常生活において人間関係について不自由を感じているかどうかについて尋ねてみたところ、回答者のうち、LGBT ではないという方が 20%見られたため、その方を除いて再集

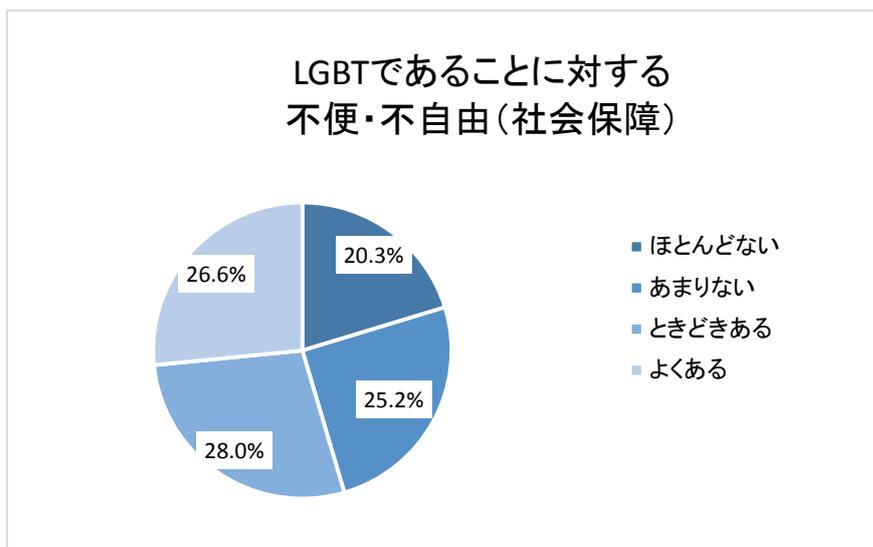
計した。そのうち「ほとんどない」が14.0%、「あまりない」が17.0%、「ときどきある」が46.2%、「よくある」が22.8%となった。

② 生活環境



日常生活において生活環境について不自由を感じているかどうかについて尋ねてみたところ、回答者のうち、LGBTではないという方が20%見られたため、その方を除いて再集計した。そのうち「ほとんどない」が19.7%、「あまりない」が27.6%、「ときどきある」が32.5%、「よくある」が20.2%となった。

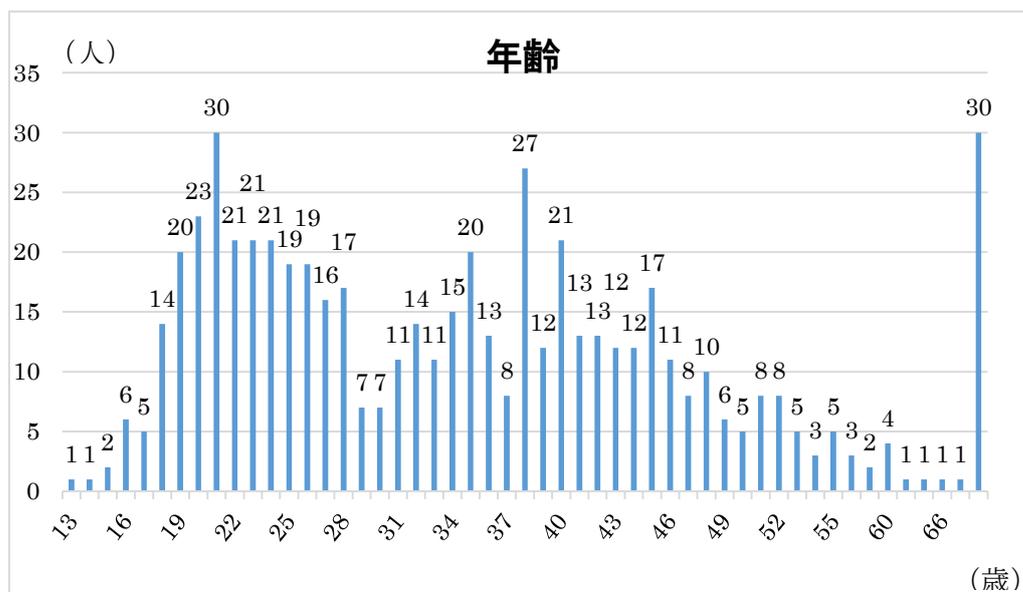
③ 社会保障



日常生活において社会保障制度について不自由を感じているかどうかについて尋ねてみ

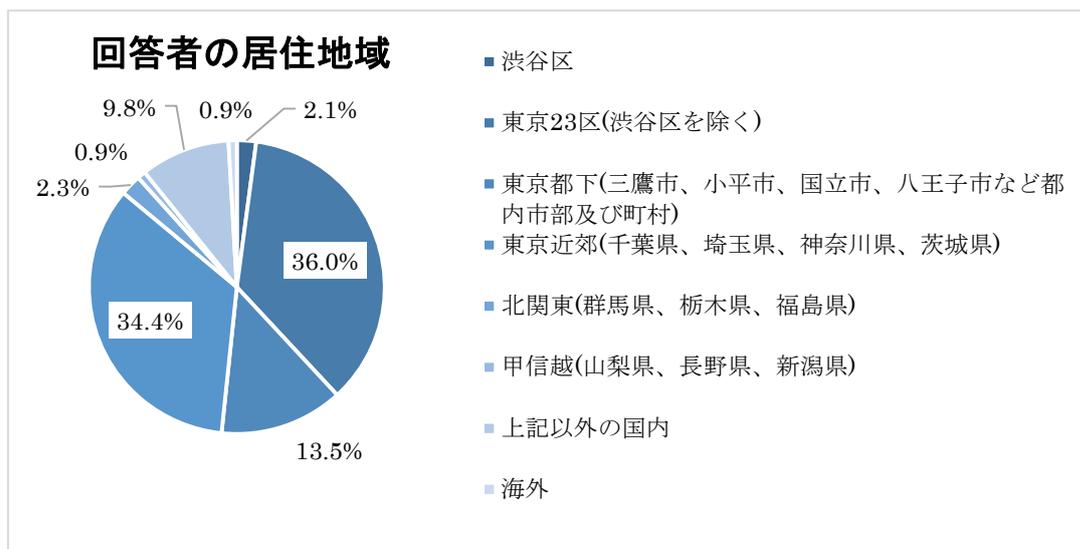
たところ、回答者のうち、LGBTではないという方が21%見られたため、その方を除いて再集計した。そのうち「ほとんどない」が20.3%、「あまりない」が25.2%、「ときどきある」が28.0%、「よくある」が26.6%となった。

Q17 あなたは現在おいくつですか。()に数字を記入してください。



最も多かったのは21歳で5.4%であり、20歳代から40歳代に集中しているが、特に20歳代が多くみられる。最少年齢は13歳、最高年齢は69歳であった。

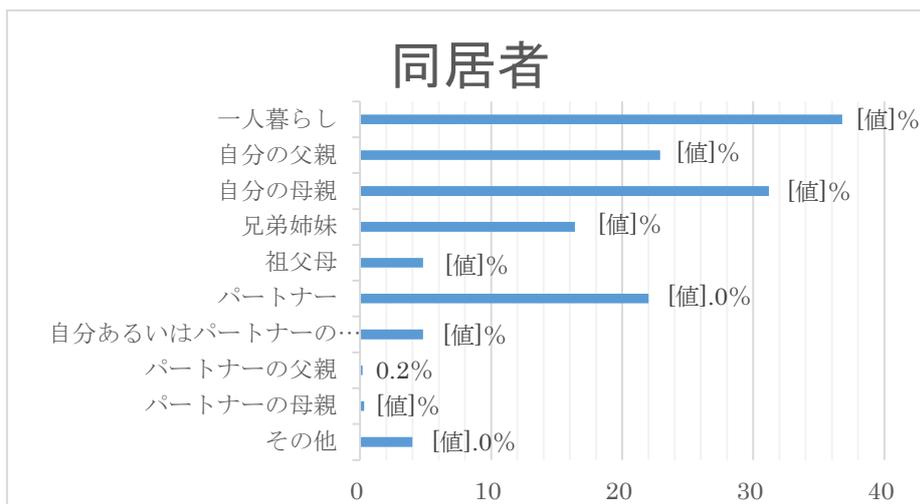
Q18 あなたのおすまいはどちらですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



渋谷区を除く東京23区に住む人が36%と最も多く、次いで東京都近郊に住む人が34.4%、

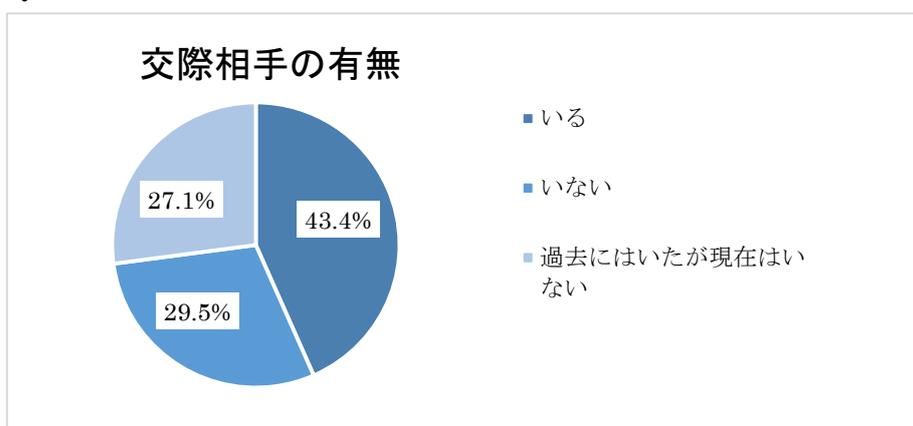
東京都下に住む人が 13.5%となっている。上位 2 つで約 70%を占めていることがわかる。これは甲信越に住む人も 9.8%と渋谷区に居住している人を合わせた割合と比較すると約 5 倍となった。

Q19 あなたはどなたと暮らしていらっしゃいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



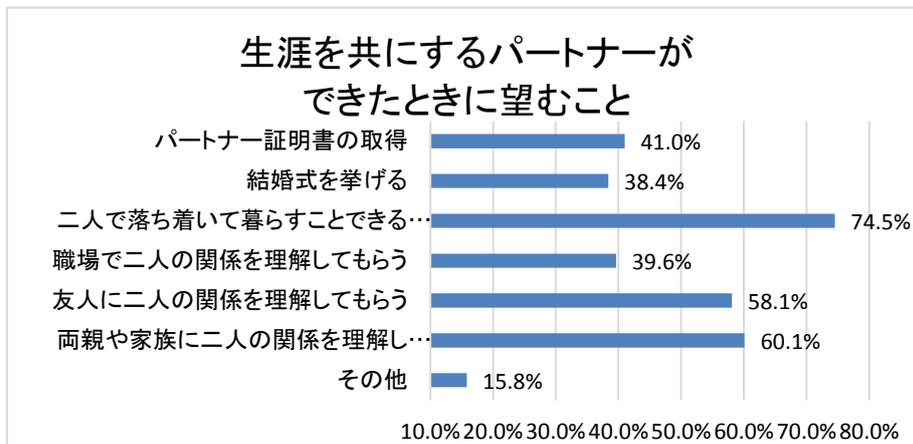
結果をみると、同居者のいない、一人暮らしである回答者が 36.8%と最も多かった。同居者がいる人について、自分の母親と同居している人が 31.2%最も多く、ついで自分の父親と同居している人が 22.0%、3 番目に多かったのがパートナーと同居しているひとであった。(回答は複数回答である) (「その他」の具体的内容は別途記載)

Q20 あなたはお付き合いしている方はいますか。



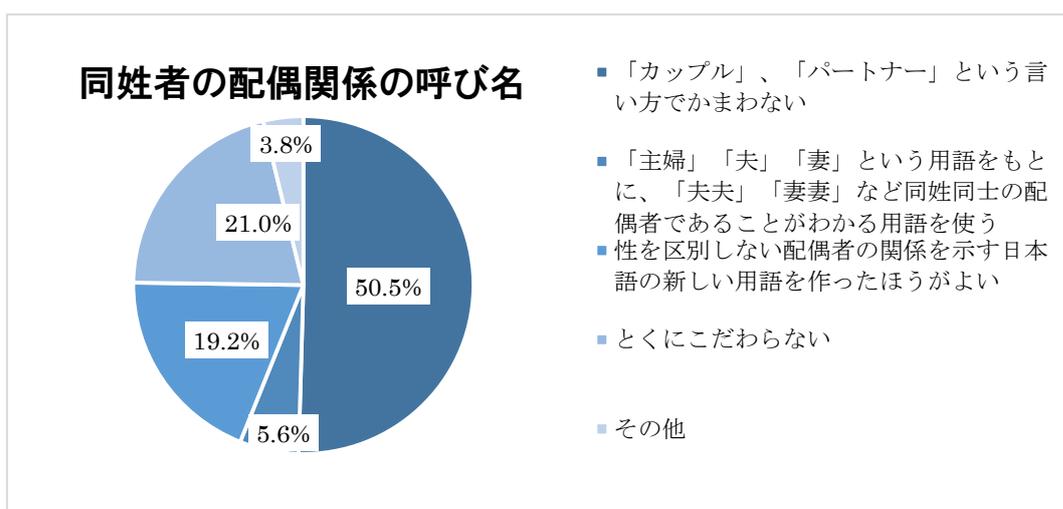
交際相手が現在「いる」は 43.4%、「いない」54.6%、「過去にはいた」という割合が 27.1%であった。

Q21 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたは、どのようなことを望みますか。



最も多かったのは「二人で落ち着いて暮らすことができる住まいを探す」(74.5%)であった。次いで「両親や友人に二人の関係を理解してもらおう」(60.1%)、「友人に二人の関係を理解してもらおう」(58.1%)が高い。「パートナー証明書の取得」(41.0%)、「職場で二人の関係を理解してもらおう」(39.6%)、「結婚式を挙げる」(38.4%)はほぼ同じ割合となった。「その他」の具体的内容は別途記載

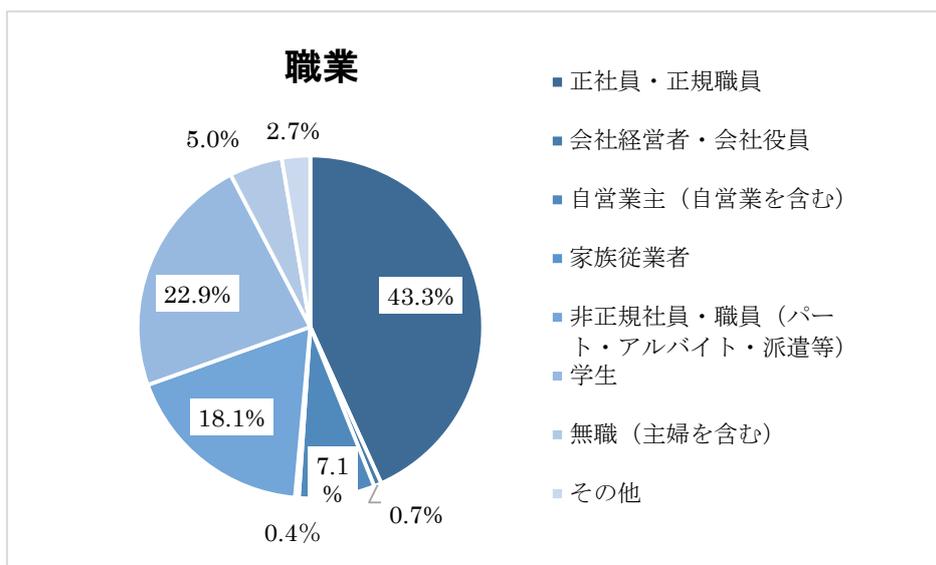
Q22 現在同性の方の配偶関係を指す言葉としては、「カップル」、「パートナー」という性区別しない英語をカタカナに直したものが使われており、「夫婦」「妻」「夫」に代わる日本語として定着した用語はありません。このような状況に関してあなたはどのように思われますか。当てはまる番号に一つだけ○をつけてください。



「カップル」、「パートナー」という言い方でかまわないという割合は 50.5%と過半数を占め、「カップル」、「パートナー」に代わる日本語を新たに作ったほうがよいという割合は

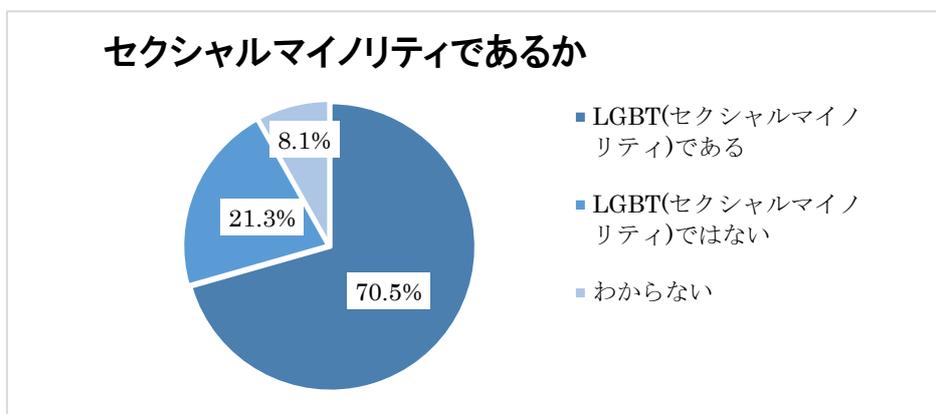
19.2%に留まり、とくにこだわらない（21.0%）とほぼ同じであった。「夫夫」「妻妻」など日本語などの見た目でも同性愛者カップルだと理解できる言葉を使うという割合は、5.6%と低い傾向がみられた。

Q23 あなたのご職業についてお伺いします。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



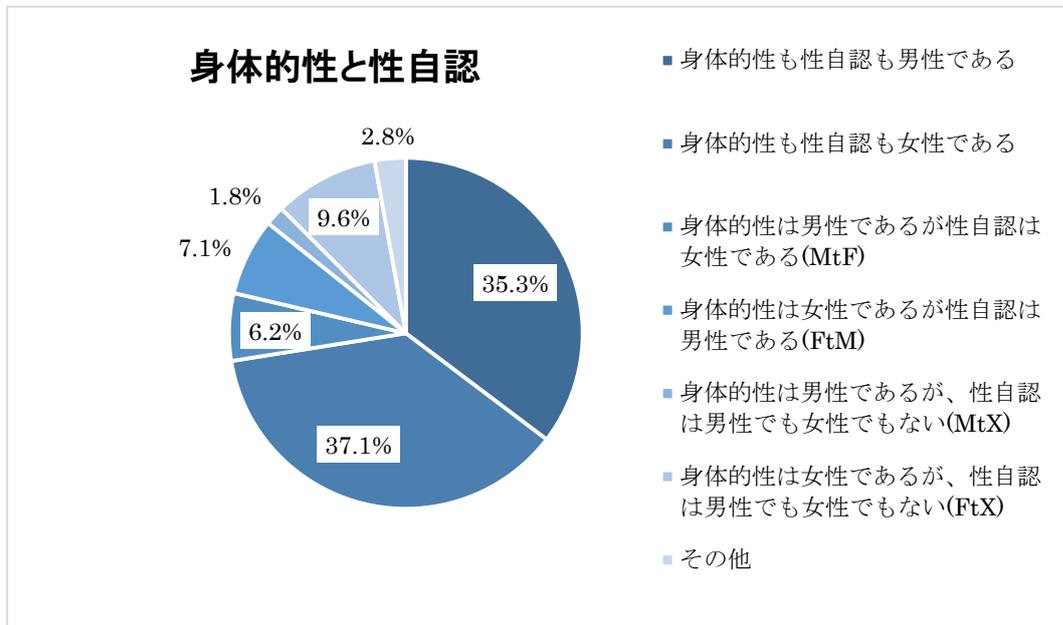
一番多かったのは正社員・正規社員で 43.3%だった。学生も 22.9%、次いでアルバイト・パートなども 18.1%であり、来場者の年齢分布が 20 歳前後と 30 歳代後半から 40 歳前半に集中していたことから、来場者は学生と働き盛りの会社員の方が多いことがわかる。（「その他」の具体的内容は別途記載）

Q24 あなたのセクシュアリティについて伺います。当てはまるものに一つだけ○をつけてください。



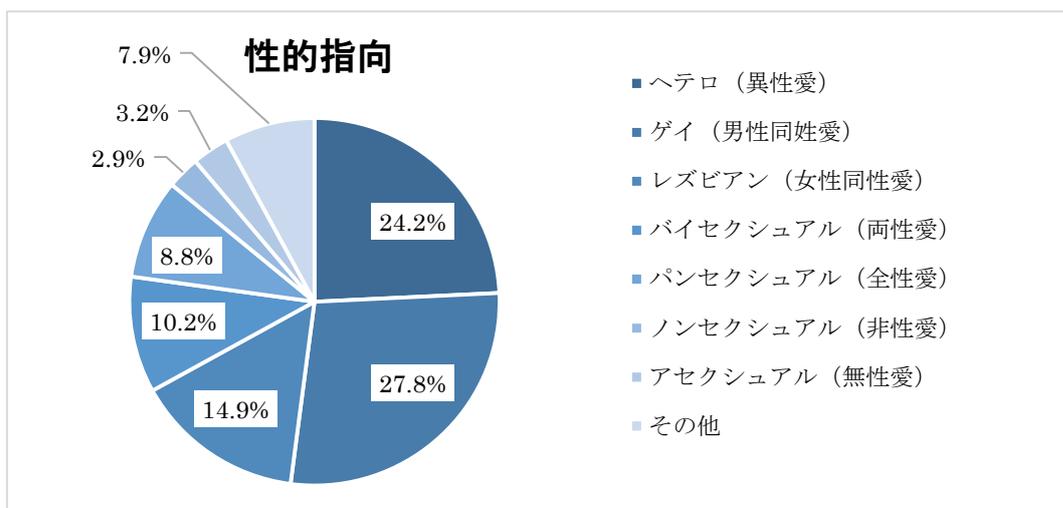
LGBT（セクシャルマイノリティ）であるという割合は 71%であり、LGBT（セクシャルマイノリティ）ではないという割合は 21.3%、わからないという割合は 8.1%であった。

Q25 あなたの身体的性と性自認について伺います。当てはまるもの番号に一つだけに○をつけてください。



身体的性と性自認も男性であるという割合は 35.3%、身体的性も性自認も女性という割合は 37.1%であった。MtF は 6.2%、FtM は 7.1%、MtX は 1.8%、FtX は 9.6%、その他は 2.8%であった。

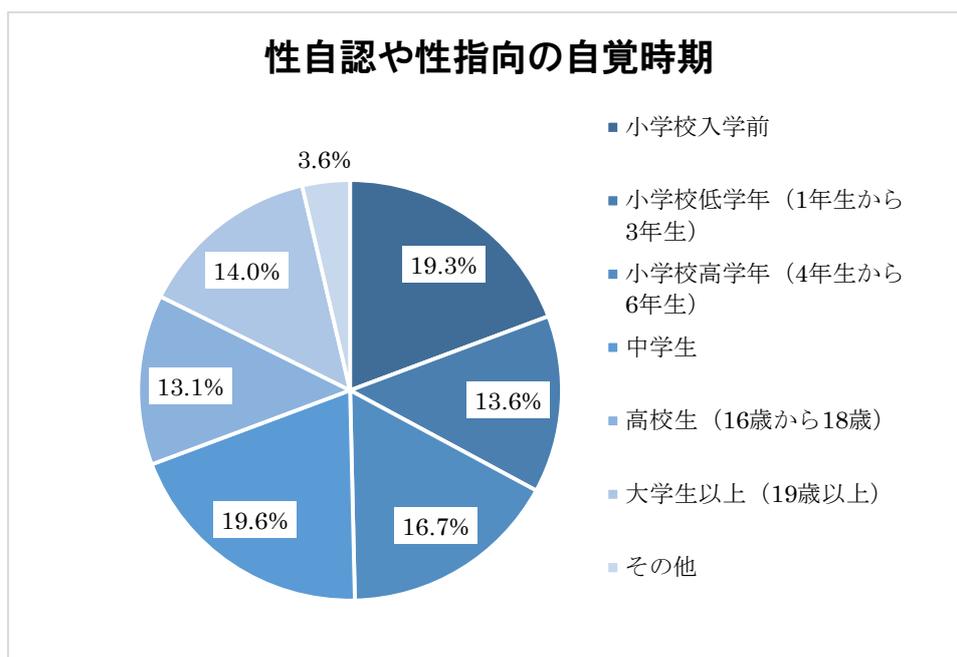
Q26 あなたの性的指向についてお伺いします。あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。



性的指向で最も多かったのは「ゲイ」の方で 27.8%、次いで「ヘテロ」 24.2%であった。それに続き、「レズビアン」 14.9%、「バイセクシュアル」 10.2%、「パンセクシュアル」 8.8%、

「その他」 7.9%、「アセクシュアル」 3.2%、「ノンセクシュアル」 2.9%となった。レインボーパレードには様々な性的指向を持つ人が参加したと言える。また選択肢以外の「その他」の性的指向を持つ人も見られた。

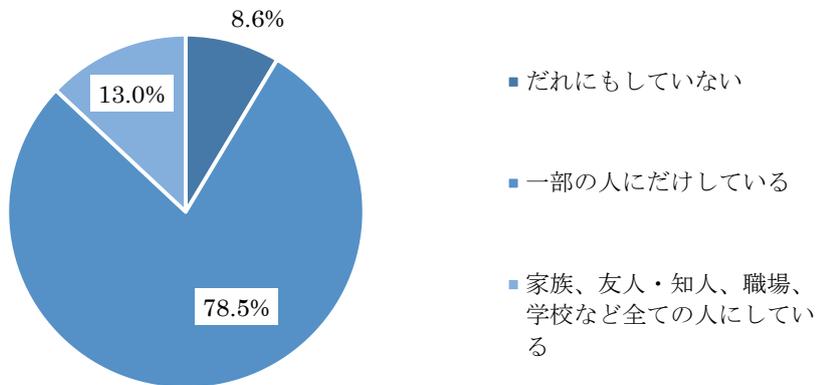
Q27 あなたがご自身の性自認や性的指向について自覚されたのはいつごろからですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。



自分自身の性自認や性指向を自覚した時期については、「中学生」が最も多く 19.6%、次いで「小学生入学前」 19.3%、「小学生高学年」 16.7%、「大学生以上」 14%、「小学生低学年」 13.6%、「高校生」 13.1%となった。その他が 3.6%であった。小学校前に自覚されることが多いが、時期は人によって様々であり、個人差があることがわかる。（「その他」の具体的内容は別途記載）

Q28 あなたはご自身がセクシュアルマイノリティであることを周りの方にカミングアウトしていますか。あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。

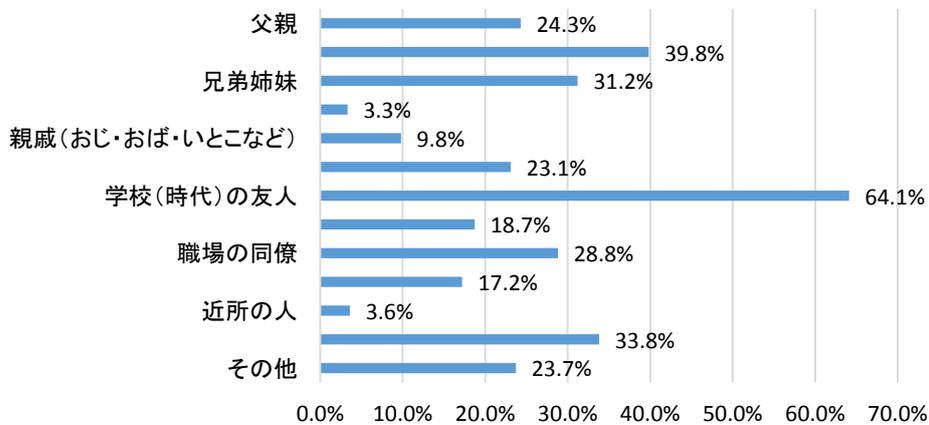
セクシャルマイノリティ のカミングアウト



回答者のうち、「4セクシュアルマイノリティではないので、カミングアウトの必要はない」と回答した方が全体で 20%であったため、この方たちを除いて、再集計したところ、「一部の人にだけしている」という方が 78.5%と最も多かった。次いで「家族、友人・知人、職場、学校など全ての人にしている」が 13.0%、「だれにもしていない」が 8.6%であった。

Q28SQ1 Q28 で「2. 一部の人にだけしている」と回答された方に伺います。具体的にはどなたにカミングアウトされていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。

カミングアウトしている人物



※複数回答のため、合計で 100%とはならない

カミングアウトをしている人をたずねたところ、最も多かったのは、「学校の友人」で64.1%、次いで「母親」39.8%、「パートナー」33.8%、「兄弟姉妹」31.2%、「職場の同僚」28.8%、「父親」24.3%、「その他」23.7%、「幼なじみ」23.1%、「学校の先生」18.7%、「職場の上司」17.2%、「親戚」9.8%、「近所の人」3.6%、「祖父母」3.3%という順になっている。「その他」の具体的内容は別途記載)

第2章 アンケート項目の「その他」の具体的内容と自由記述

Q1 今回の東京レインボープライド2016を知ったきっかけについて教えてください。

「その他」の回答内容について

① 情報媒体から

- ・渋谷マルイの写真展
- ・イベントのチラシをみて
- ・LGBT関連の本を読んで知った
- ・Facebook (2人)
- ・アプリで見た

② 人を通じて

- ・大学の講義
- ・FtMの子を持つ為

③ イベント内容で

- ・ボランティア
- ・出店ブース
- ・チャラが出るから

④ 以前来たことがある

- ・以前から知っていたが、初めて来店した
- ・札幌いらい来ていなかったの

Q2 東京レインボープライド（プライドパレード）への参加は今回で何回目ですか。

「その他」の回答内容について

- ・4～5回
- ・2001年からずっと
- ・していない

Q3 どのような目的でこの催しにいらっしゃったか、教えてください。

「その他」の回答内容について

① 関心・意思表示

- ・自助グループのブースに行くため
- ・LGBTの社会的な立場の改善（2人）
- ・レインボープライドをアピールするため
- ・情報集収
- ・セミナーや勉強会のため
- ・色々な事情により余りこういう場所に来ることのできない FtM の友人への理解を少しでも深めようと
- ・LGBTやアライがたくさんいることを実感して安心するため

② 仕事・学校

- ・ブース出店（9人）
- ・企業参加
- ・全国各団体へのごあいさつ

③ その他

- ・元気、パワーをもらうため
- ・友人と会うため・楽しむため（3人）
- ・ボランティア（2人）
- ・カンボジアフェスティバル（2人）
- ・倅田くみのライブの参戦かねて
- ・馬鹿の見物

- ・たまたま（2人）
- ・子どものつきそいで

Q4SQ1 Q4で「1.満足していない」、「2.やや満足していない」に回答された方に伺います。どのような点に満足されなかったのでしょうか。

「その他」の回答内容について

- ① パレードについて
 - ・仕事で来られない
- ② 飲食の屋台について
 - ・ベジタリアン仕様の食べ物がほとんどない

Q5 レインボーウィークの期間は、この会場でのパレードとフェスタのほか、パーティやワークショップなど様々な催しが行われています。あなたはこれらにも参加します（した）か。

「その他」の回答内容について

- ・横山順さん写真展
- ・中野の展示を見に行く予定
- ・絶対参加しない
- ・写真展は見に行った
- ・予約ができなかったため不参加
- ・知っていたけど申し込みができなかった
- ・ステージをみたい イスラエルのDQショー
- ・LGBT法連合会

Q6SQ1 Q6で「2.LGBT関連の活動はしていない」と回答された方に伺います。そうした活動をされていないのはなぜですか。

「その他」の回答内容について

- ・二丁目で店をやっているから
- ・個人レベルで行っているから
- ・様々な支援のあり方として参加
- ・団体には入っていないがつながりはある
- ・できるときにしようと思っているから
- ・きっかけが近隣にない（5人）
- ・忙しく具体的に活動に携わっていない（6人）
- ・他の分野の活動をしているから（2人）
- ・どこに所属したらよいか分からない（3人）
- ・当事者の友人の意向次第

- ・LGBT当事者ではないがLGBTと言われる人々が特別違うとは思わない。周囲に多くいるが普通の人。大切に大好きな友人。人としていてくれることに感謝しているが特別な人ではないと思う。考えたことはないが私の職場では働きずらそうだと思う。なぜなら恋人が1度も出来たことがない人にゲイじゃないかとかからかうような人がいるから。
- ・参加したい催しがあったが、予定が合わず参加できなかった
- ・私自身、一見してLGBTだとわかるので、日常的な私自身の立ち振る舞いを通してLGBTを理解してもらうのが結果的に活動の一環になっていると思う。あまり肩肘張らずに過ごしたいと思う。
- ・啓発等の活動は参加しているが個別でこどもの相談に乗る等行っている
- ・あの人間関係が嫌いだから
- ・したくない

Q8SQ1 Q8で「1.ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた授業はどのようなものでしたか。

「その他」の回答内容について

- ・理論(ジェンダーについて)LGBTのことも関するので
- ・ジェンダー論(大学時代にうけました)半年2単位科目でした
- ・自分でALLYを増やす活動をしている

Q10SQ1 Q10で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。

「その他」の回答内容について

- ・LGBTの説明(言葉の)、当事者の現状の記載のみ
- ・人はイロイロあるという全体の倫理をする授業が必要
- ・学校に男性でも女性でも誰でも使用出来る更衣室やトイレを用意すべきだと思う。
- ・校外学習、道徳、総合的な学習の時間・保健体育全て絡めて、校外でも学習させる
- ・国が主体となり当事者に関し、科学的な観点から教育を行う事が重要である
- ・LGBTはもちろん、人権そのものについての授業
- ・学校の教科書にもっと載せて保護者会をひらいてほしい
- ・家族で

Q11SQ1 Q11で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいですか。

「その他」の回答内容について

- ・上記と同じ(人はイロイロあるという全体の倫理をする授業が必要)

- ・職場にも男性も女性も使用出来るトイレや更衣室や仮眠室を用意すべきだと思う。
- ・上記（国が主体となり当事者に関し、科学的な観点から教育を行う事）と同様であるが、当事者は、例として、アスペルガー⇒私自身が当事者 の様に脳の使い方(脳の活動部分)が大多数と異なる事を教育すべきである。(病気であるが、個人の脳の使い方に生来からの差があることを科学的に説明する)
- ・専門家(?)の方を招いて当事者とそうでない方 起きそうな誤解をあらかじめ説明してもらう
- ・他者の（先進的な）事例の紹介

Q14SQ1 Q14 で「1.利用しない」「2.絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない」と回答された方に伺います。利用しないのはなぜですか。

「その他」の回答内容について

- ・現実味がないから
- ・同性と恋愛しない可能性が高いから
- ・当事者でないから（5人）
- ・周りにバレたくないの（2人）
- ・自分のアイデンティティを示す
- ・MTF でビアンなので法的に結婚できるから（戸籍は男）
- ・同性同士の組み合わせか考慮されていないため ex) FtX と MtX のパートナーシップはどうなるの？
- ・東京都で住むのが好きではない。他都道府県でもこのような活動が広まって欲しい。
- ・結婚しているから
- ・asexual なので
- ・同姓間の結婚などの関係については地方レベルよりも国政の問題として国民的議論を展開すべきだと思うから。
- ・特になし
- ・戸籍を変えれば良いと思う
- ・自分が性別を変更したから
- ・恋人はカミングアウトしていないから
- ・誰にも認めてもらえなくても大丈夫
- ・あまりパートナーを作ろうと思わない
- ・田舎だから

Q14SQ2 Q14 で「3. 必ず利用するかわからないが、たぶん利用する」「4. 必ず利用する」と回答された方に伺います。利用しようと思うのはなぜですか。

「その他」の回答内容について

- ・まだ良く分からない
- ・困ったことはまだないけど役に立つかもしれないから。
- ・いることをわかってもらうため

Q15 海外では、同性の法律婚が認められたり、同性カップルの法的保障が進められたりしています。日本でも渋谷区の同性パートナーシップ証明書や世田谷区のパートナーシップ宣誓書が施行されましたが、法的な保障制度ではありません。あなたは、日本においても、法的な保障制度が必要だと思いますか。

「その他」の回答内容について

- ・あらゆる婚姻形式を自由に
- ・本当は母子家庭じゃないのに母子家庭としていたりする。なのでずるくない制度が必要
- ・婚姻・パートナーシップ両方両性カップル形に関わらず同じ法的制度
- ・同性婚は認めるべきである
- ・複数の人たちとの婚姻的関係を保障する制度→法的制度
- ・必要なし

Q18 あなたのお住まいはどちらですか。

1～6 以外の国内 具体的な回答

- ・大阪府（2人）
- ・鹿児島県鹿児島市
- ・兵庫県（2人）
- ・福岡県
- ・名古屋市
- ・山形県（2人）
- ・北海道
- ・京都

海外 具体的な回答

- ・香港
- ・韓国
- ・ハワイ
- ・コペンハーゲン、デンマーク

Q19 あなたはどなたと暮らしていらっしゃいますか。

「その他」の回答内容

- ・友達（3人）
- ・配偶者と子供
- ・友人と友人の彼氏
- ・妻と子供
- ・シェアハウス（4人）
- ・夫と母
- ・子ども
- ・パートナー、子ども

Q21 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたはどのようなことを望みますか。

「その他」の回答内容について

- ・法的な保障
- ・相続権
- ・社会的に認めてもらいたいです
- ・LGBTではないがみんなが安心してらせる日本へ
- ・隠し通します
- ・生涯ともに歩んでいければ何でも良いが、形式に関しては社会の制約から自由がイイ。
LGBTのみでなく年の差、多夫多妻制、その他なんでも。
- ・ノーマルである。結婚はしないと決めている。
- ・結婚する（相手が女性だとして）
- ・パートナーにまかせる
- ・子供がほしい（2人）
- ・2人でワイワイ老後を迎えたい
- ・独身で生きていくと決めています。LGBTだからではなく、他の人と二人で共同生活することにあまりにも大きな負担が予想されて、恋愛や結婚は現実的でないと考えています。
- ・一人で十分 したいこと一杯あります
- ・作らない
- ・法的に不利益を回避する手段になる
- ・結婚はしたくない

Q22 現在、同性の方の配偶関係を指す言葉としては、「カップル」、「パートナー」という性を区別しない英語をカタカナに直したものが使われており、「夫婦」「妻」「夫」に代わる

日本語として定着した用語はありません。このような状況に関して、あなたはどのように思われますか。

「その他」の回答内容について

- ・MとF界では「相方」と呼ぶ人もいる
- ・急には判断できない。
- ・とりあえず1で、その後はわからない。
- ・配偶者で良い
- ・すでに「相方」「配偶者」など多様な呼び方があるので当事者の使いたい言葉をそれぞれ（どれが正しいではなく）使えばいいと思います。

Q23 あなたのご職業について伺います。

「その他」の回答内容について

- ・カウンセラー
- ・教員
- ・精神障害者
- ・公務員
- ・塾の先生
- ・僧侶
- ・歌手

Q25 あなたの身体的性と性自認について伺います。

「その他」の回答内容について

- ・身体…男、自認…男：女=90：10くらい
- ・性別移項しているが自認はX (MtFtX)
- ・パンセク
- ・治療はしているが謎 (FtM、FtX)
- ・あいまいでわからない
- ・ニューハーフで上半身全部整形で昼は男

Q26 あなたの性的指向についてお伺いします。

「その他」の回答内容について

- ・女性
- ・ノーマルと思っていたが最近もしかして違う？と思いはじめている。
- ・愛と性は分からない
- ・1のFtMの友人のことをみとか早とかそんなことはどうでもいいくらい好きではありません。

- ・ **SEX** するなら異性が楽だが拘束はない。多分、他人に対する関心が低いので欲求が少ない。
- ・ **F to M Straight Man who likes girls**
- ・ 異性しか交際したこともないし、好きになったことはないけれど同姓でもその人が好きだと思えば一緒にいたいと思う。この難しい言葉で人間の感情を区別することが不思議。恋はしようと思ってするのではなく気がついたら落ちているもの。
- ・ わからない (2人)
- ・ トランスジェンダー
- ・ トランスセクシャル

Q27 あなたがご自身の性自認や性的指向について自覚されたのはいつごろからですか。

「その他」の回答内容について

- ・ 生まれたとき
- ・ わからない
- ・ あまり記憶にない

Q28SQ1 Q28で「2.一部の人にだけしている」と回答された方に伺います。具体的にはどなたにカミングアウトされていますか。

「その他」の回答内容について

- ・ 友人 (5人)
- ・ **twitter** の友人 (セクマイさん)
- ・ 学校外の友人
- ・ 趣味を通じた友人 (2人)
- ・ 生活保護のケースワーカー
- ・ 今身近な東京の友人
- ・ 海外で知り合った人
- ・ 仲の良い信頼できる人
- ・ 学校の先輩(**FTM**)
- ・ 子ども
- ・ 職場で友人になった人
- ・ 同じレッスン生の方
- ・ 一見して **LGBT** とわかるので、基本的にカミングアウトの必要がないです。
- ・ 中学の塾の先生

(自由記述項目)

「今回のイベントやこのアンケートに関しまして、ご意見・ご感想がありましたら、以下

にご自由にお書きください。」カッコ内は回答者のセクシュアリティ（Q26『性的指向』）を表している。（なお、同じ回答があった場合は「セクシュアリティ：人数」を表示している。

●要望

○サイトについて

- ・アンケートサイトが重い。
- ・簡単でいいので公式ページに英語でのインフォメーションが欲しい。

○イベントについて

- ・次の東京レインボープライドは、東京ドームか神宮球場でやりましょう！
- ・フェスタでのステージが地味。
- ・パートナーとの法的制度、生命保険、いろいろな困難な事例など体験者の話とかステージで聞きたい。
- ・サルサやカンボジアフェスと重なり音が混じっていたので今後はそちらもTRPの会場としてはどうでしょうか。
- ・いくつかの関連イベントに参加しました。参加費が何に充てられているのか、はっきり明言したほうがよい。会場費、またはプライド関連の実務費用として使われるなど、どの会場でも一言欲しかった。

○運営について

- ・英語（あるいは他の外国語）を話せるスタッフかそうでないか一目で分かるステッカーなどがほしい。
- ・スタッフがもう少し多いといい。
- ・休憩・飲食スペース（屋根付きのベンチ）、ゴミ捨て場が少ない。（4人）
- ・本部やイベントブースの位置がわかりづらいので、会場内で自由に閲覧できるマップ、マップの番号とリンクできるように番号表示などわかりやすくしてほしい。（7人）
- ・雨天晴天や気温が高低温の日もあると思いますので、次回は、東京ビッグサイトの屋内外で開催してほしいですね。
- ・来賓の挨拶は、参加がない他の政党を批判するような内容は控えて貰うべきだと思います。
- ・トイレが混雑していたので何か良い手立て（ジェンダーレストイレの増設など）がないか検討を求む。（6人）
- ・パレードやフェスの運営の上、数多くのボランティアを動かすのも大変かとは思いますが、せめて軽い説明だけでも、すべてのジェンダー、セクシュアリティについてしてほしい。
- ・出店ブースの商魂の強さが気になります。来場者の多様なセクシュアリティに対して運

営側はもっと慎重に対応する意思統一をしてほしい。

- ・ 拾得物の問い合わせ場所をはっきりさせてほしい。
- ・ 当事者以外がパレードやフェスを見て、何をやっているのか、わかりやすくしたほうがよい。今はパレードを見ても何をしているのかわかりにくい。当事者以外にもっと伝える努力が必要でもっと当事者以外の参加をうながし主張する工夫が今後の課題だと思います。

同性婚やパートナーシップ、LGBT 差別や子どものいじめなどテーマを持った方が良いのではないのでしょうか？

- ・ 同嗜好者以外に対する対応があまりよくないブースが多々あったように感じます。そもそも全体のブース案内が判らず行き当たりばったり感が強かったためもっと本部や案内を出すべきです。先に申し上げた通り、身内や関係者以外のストレートに対する対応に温度差を感じられるムードがあったこと、また、内輪盛り上がりもみられたため、理解を高めたいなら平等にすべきです。
- ・ ブースの場所の決定が遅すぎると思います自身のブースに搬入しようとしたら長机置き場にされていました。申し込み時にタブロイド紙の発送をお願いしたはずなのに届きませんでした。またタブロイド紙にブースレイアウトがないのでわかりにくいかと思いました。タブロイド紙を手にもっている来場者が少なかったようにみえたので今年は見送ったのですが、来年広告を出稿するか悩みどころ。

○パレードについて

- ・ パレードのフロートを選ぶときに、シュプレヒコールがあるかどうか事前に分かって嬉しい。流す音楽なども知ってからフロート選びたいです。
- ・ パレードのゴール地点がよく分からなかった。
- ・ パレードのフロートの並び場所、スタッフさんが来るまで合っているか不安だったので番号がふってあったら助かるなーと思いました。

●感想

○パレードについて

- ・ パレードを拝見させていただき幸せな涙が流れました。仲間と同じ空気同じ瞬間を共有させていただきとても意味のある時間でした。
- ・ パレード中の歩道車道間出入り禁止事項がパレード参加者や報道関係者に共有されていなかった。
- ・ 歩きがおそかったりして隊列とずれても「5人で横並びであるいてください」とか、特段遅いわけでもないのに「早く歩いてください」と連呼するのは表現の自由を阻害する。紀勢線の中でラフに歩いていくのは欧米ではあたりまえ。小学校の運動会の行進のように歩かされるのは苦痛。LGBT で自由を勝ち取りたいのに、パレードで自由を阻害する（別に警察の規制線をはみ出ているわけではないし、特段ゆっくり歩いているわけでも

ない) のはいかがなものか？

○イベントについて

- ・パレードなどとても楽しくて良かった。(3人)
- ・TRP 2016 楽しかった。来年も参加したい。(10人)
- ・素敵な時間ありがとうございました。
- ・これからもたくさんイベントしてほしいです。
- ・もっともっと盛り上がるイベントに育ってほしいです！
- ・運営スタッフの皆さんには本当に感謝です。お疲れ様です。ありがとうございました。(3人)
- ・いくつかの点で、意識のあるイベントだった。関連ブースと一般参加者の距離の近さ、国内外の影響力を与える人からの賛同をとりつけている。
- ・イベントに関しては、ブースが増えたことが嬉しかったです。大手企業でも首をかしげるようなコンテンツがあったりして、がっかりもしましたが。飲食ブースが殖えたのは良かったですね。
- ・LGBT をより多くの人に理解してもらうためにもこのようなイベントは必要だと思います。
- ・TRPはLGBTが先頭に立っているがLGBTだけでなく様々な生きづらさを感じている人の祭典との戦いの場になっていると思う。
- ・ほぼ毎年参加してますが田舎暮らし故イベントに参加することでLGBT仲間がこんなにたくさんいるんだと励まされたような気持ちになります。
- ・老若男女、人種国籍、どんな方も居たので、ゲイである事も気にする事なく楽しめた。社会全体がこの様に多様性を認める様になるとLGBTに限らず、楽しく住みやすい社会になると思った。これから、移民、難民の受入もあると思うので、早い内に社会が多様性受容社会にならないといけないと思った。今まで、外国人観光客を見るとちょっと緊張していたけど、この会場では、まったく意識しなかった。これが、自由なのかなと感じた。
- ・一人で行ったんですが、恋人や仲良い友達と行く方が多かったので、気まづい場面も少々ありました。友達作りたい気持ちで行って見たのもありましたが、難しい環境だなんて思いました。
- ・実際に参加したのはまだ二回ですが、見ていても疑問なのが、一部の参加者による趣味嗜好を曝け出したパフォーマンスやパレード参加です。正直、見ていてとても不快であること。知識のない一般人から見たら誤解を招く危険性があることを、主催者側はどのようにお考えでしょうか。LGBTという言葉が世に出るようになった今だからこそ、気をつけるべきことがあると思います。理解が進んできたからこそ、違うアプローチをして、進む道を誤らないよう舵取りをする必要があると考えています。メディアにも取り

上げられるほどの影響力のあるイベントだからこそ、もうそろそろ転換期なのではないでしょうか。これからを生きる若者たちが、新たな不利益を被ることのないよう、また東京レインボープライドが更に良くなっていくよう本当に心から願っています。(バイセクシュアル)

- お祭りとしては楽しいですが、同姓愛者によるためのイベントのようで、トランスセクシュアルでありつつ普通に暮らしている者にとって TRP2016 には居心地のようなものはありませんでした。
- 初めて参加しましたが、楽しかったです。自分が性的欲求を抱かないため、イベント会場で様々なセクシュアリティやアイデンティティの空気感を感じられ、安心できて楽しめました。嬉しかったです。人がただありのままの姿で在ることで居心地とくいられる場所が日本に増えますように。来年は参加したいです。(ノンセクシュアル)
- 主催側の問題ではなく、参加者モラルの問題だが、捨てられたごみが多く非常に残念に思うことが多かった。
- 初期の頃のパレードから参加したり観たりしてきましたが、最近は年々自分が年老いているの確認する機会にもなっています。
- TRP 何回も参加していますが、今年は特に思ったのが「LGBTは身近にいるよ」というのを広めるためのイベントなのに自己主張激しすぎて他人に迷惑かけたり完全に露出狂の域超えてたり、挙句の果てに性風俗ブースまで出展してたり主催の規制が甘いのでは？知らない人がみたらただの変態に思われます。当事者がみてもそう思うのだから。ただでさえメディアの論点のずれた報道で誤解を招いたりしているのにさらに誤解をうむのでは？あの場所にいるのが恥ずかしいと思う日でした。ますます生きづらい世の中になるのではと不安です。同姓婚合法などのブースに参加したり、パレードに参加して最後のハイタッチでとても楽しい思いで終わるはずが、とても不愉快な思いをしました。
- 私たちもどこにでもいる普通の人であることをアピールできる機会なのかなと思ったのですが、半裸や極端に奇抜な格好の方が何名かいらっしゃって辛かったです。節度というものがあるのかと…。正直なところ、同類と思われたくない、という気持ちになりました。
- 地方在住者にとってはイベントは貴重な情報収集や仲間との再会ができる場所でもあります。
- 地方とかいろんな場所で開催できるようになればより多くの人に LGBT のことを知ってもらえると思う。
- LGBT について、たくさんの当事者やアライさんと会うことができ、勇気づけられた。パレードに参加できて、良かった。
- 約 10 年ぶりの参加。一般のアライ企業参加が多く、また LGBT 以外の来場者やボランティアの多さから時代の変化を感じた。ストレートアライの私にとっても久々心から楽し

めたイベントでした。ありがとう！

- ・一人で参加し、寂しかったが、ある参加者の方が声を掛けてくださり嬉しかった。
- ・アセクノンセクの方のブースや行き場がないと感じた。
- ・私はシスジェンダー女性の **aromantic asexual** です。

昨年よりは **Asexual** や **Xジェンダー** など狭義の **LGBT** 以外のセクシュアリティやジェンダーが扱われたブースも見受けられましたが、それでもほとんどのブースではセクシュアル・マイノリティは **L・G・B・T** のみであるという姿勢だったのが残念でした。流行らせた言葉が便利とはいえ、**s** を付けた「**LGBTs**」ですらないというのは、その他のセクシュアリティ・ジェンダーが蔑ろにされていると感じます。

- ・参加したあと、前向きに生きていこうという気持ちになれます。今年はパレードにも参加し、仲間と共に堂々と歩け、幸せでした。ありがとうございました。(ノンセクシュアル)
- ・年々プライドは盛り上がりを見せていますが、今年は特にその勢いを実感しました。状況はかなり変わってきていることを嬉しく思うし、今後もみんなの力で、よりよくしていける〜と心強く思いました。(2人)
- ・最後のライブの時だけ異常に混雑して息苦しかった。
- ・企業ブースの参加はいいが、**LGBT** に対してどう訴求を図るかということを考えている企業が少ない。(2人)
- ・年に一度、みんなが自分に素直に自分らしく振舞える日。この日が来ることを毎年楽しみにしています。
- ・年々ブースを出してくださる企業が増えている(気がする)のが嬉しいです。(その他)
- ・最初ぱっと見たときは不安と感動でいっぱいでしたが、いろんな方とすれ違うだけでワクワクしました。なんだか素でいられる気がしました。とっても楽しかったです。来年の開催も楽しみに待っております。
- ・**LGBT** に限らず、その他バイセクシュアルやパンセクシュアル等の旗を販売しているブースは多様性を理解していて、本当に良かった。それと、無料ワインのブースがなくなったのは本当に悲しいです・・・。
- ・**LGBT** に関わらず、許容性の高い社会は多くの人にとって生きやすい社会であると思うので、社会における許容性を高めるためにも今回のようなイベントが行われることは非常に良いと思う。
- ・**L** と **G** と **T** だけでなく **X** ジェンダーやバイセクシュアルやポリアモリーなどもっと多様なセクシュアルマイノリティに開かれた場にしてほしい。今の現状は新宿二丁目祭りの拡大版に過ぎないと思っており多様なセクシュアルマイノリティを示すレインボーとは程遠いです。
- ・クラブ好きなのもありますが、アフターパーティーはかなりよかったですよ。それに入場無料というのはすごいサービスだと思います。行ってみてよかったです。(ゲイ)

- ・ 8日の司会者の方はシークレットガイズに対しての差別があると思いました。帰れ!!って、失礼じゃないですか？彼らを大好きなファン私達は大変傷つきました。公式に謝罪をしてほしいです。
- ・ ゴールデンウィーク期間中でよかった。
- ・ 初めて参加しました。代々木公園での2日間は素晴らしかったです。LGBTだけでなく、家族連れ、ストレートカップル、外国人、ペットなどいろんな人が参加して、まさにダイバーシティでした。政治的なにおいも感じられず、みんなが楽しめるお祭りでリラックスできました。まだ、カミングアウトしていないので、パレードには参加できませんでしたが、当事者のみんながパレード後に生き生き輝いてみえて、サングラス越しに涙が溢れました。来年も規模を拡大してつづけてください。応援しています。
- ・ なんだか来ている人全員がのびのびして、いきいきしているように感じました。みんな笑顔でした。ただ、気になったのは1つだけ。ステージ終わりでチラシなどゴミが激しく散らばっていたこと。そして、それを集めようとしたのですが、スタッフさんてゴミを集めている人も見当たらず、自分がゴミを拾ったとしてもどうしようと思って行動に移せなかったことです。これは、イベント側ではなく来場者の個々の気持ちによるものが大きいですが。来年もまた必ず行きたいと思いました！ステージも素晴らしかった！青森のリンゴジュースおいしかったです！
- ・ MtFの方かゲイの方か、毎年ものすごく派手な格好で参加される方がいて、程度を超すと世間からのイメージが悪化するというか、余計に「同性愛者は変態」といった感情を持たれるのではないかと心配になりました。TRP自体は今年もとても楽しかったです。
- ・ パレードを初めて歩かせていただきました。普段なかなか出せないありのままの自分をだして歩くことができました。沿道ではたくさんの方々に見守られ、とても気持ちのよい視線を感じました。私は体が男性ですが心に女性の部分があります。化粧していると普段は周囲の冷たい視線を感じることもあります。当事者として性的マイノリティを感じない社会になって欲しいです。虹さえ消えてなくなってしまう、主張の必要のない、そんな世界が理想なのかもしれません。今の世の中LGBTではない人々でもなかなか希望や夢を持って生きる事が難しい時代です。人々が生きる希望を感じたいために最近注目され、自分に素直になれる人達が増えたのだと思います。
ボランティアの方々や関係者の方々たいへんお疲れ様でした。
次回もぜひ、パレードに参加したいと思います。Haappy pride!! (パンセクシュアル)
- ・ 私はSECRETGUYZのファンです。前回のTRPからSECRETGUYZがステージ出演してくれていてそこでのイベントを通してSECRETGUYZを一人でも多くの人々に知ってもらいたいという気持ちと、セクシャルマイノリティの方々が自分らしく生きられる世の中になってほしいという気持ち、自身のセクシャルリティで悩み苦しんでいる人が少しでも救われるようなイベントであってほしいという気持ちでいます。昨年も今年も感じたことなのですが、ネガティブで重い印象にとられがちなセクシャルマイノリティの

方々のイメージが、SECRETGUYZ と出会いこのイベントに参加させて頂き、イメージが 180 度変わりました。「ハッピープライド」その言葉の通り、明るくカラフルで、パワフルで、色とりどりのハッピーで溢れていると実感しました。前回よりも確実にその規模大きく参加人数も多くなっていると感じたこのイベントが誰かの何かのきっかけになり、この世の中をカラフルに彩ることができたらいいなと思います。このイベントに出会わせてくれた SECRETGUYZ に感謝です☆そして今年も SECRETGUYZ をステージ出演させていただきました TRP に感謝です☆本当にありがとうございます。

- ・今回、ステージ横に泥酔者がいたり、ほかにも不快な思いをすることがあったりしたので次回参加しないかもしれない。
- ・企業は「LGBTは市場」と捉えているようですがそのような認識がなくなるのが本当のゴールだとも思います。
- ・兎に角社民共産党議員や党員支持者、シールズなどが最悪だったあと、主催者が LGBT の代表ヅラするのが許せない。
- ・見ず知らずの他者の性別を決め付けないようきっちりアナウンスして欲しい。毎年「お兄さん」「お姉さん」呼びや「セクマイ女性を対象としたアンケート」やらを FtM に配る人などの問題が起こっている。恋愛至上主義モノアモリー主義が過ぎてしんどい。ピンクウォッシングに荷担しないで欲しい。(ガイノセクシュアル、デミパンロマンティック)
- ・何かお手伝いできることがあればお知らせください。
- ・ゲイ文化に造詣のない人もたくさん来ているので、露出度の高い服装の方が入り口周辺にいるのはどうかと思いました。棲み分けがあればいいかもしれません。

○LGBT について

- ・マイノリティー理解のためにもこれからも活動がんばっていただきたい。
- ・LGBT に関わらず、差別視されている方はたくさんいます。娘が発達障がいがあり苦しみ辛い日々を過ごしてきました。でも、Rainbowpride を知り毎年足を運ぶ様になってから「ありのままがいい」「誰しもカミングアウトしたいことはあり、受け止めてほしい」という前向きな気持ちを少しですが持てる様になりました。LGBT の皆さんから勇気ももらってます！来年も楽しみにしています。
- ・地方での LGBT 系のパレードやイベントとは、規模や熱気が全く異なっていて、東京とそれ以外の地域の格差を大きく感じました。LGBT に人権があるということが、東京以外の地域でも当たり前になるようになってほしい。
- ・すべての人が自由に何にも不安を抱くことなく暮らせる日が来ることを願います。
- ・東京レインボープライドの目的でもある、多様性の理解、性的少数者の生きやすい世界の実現を心から望みます。

- ・様々な性自認や性志向を持つ方が、誇り高く楽しげに活動されていて、一带が多幸感で溢れていましたし、私もその恩恵に預かり、とても清々しい充実した1日を過ごすことができました。私自身、未婚ということでマイノリティになりつつあることを体感する機会が増え、性的な問題に限らず、様々なマイノリティ問題を、やっと自分事に考えられるようになった気がします。人間誰しも個性や傾向や特徴があり、それが「その人らしさ」を造るのだと思います。「らしさ」があるから人間は面白い。当たり前の事ですが、そんな当たり前の事を声高に叫ばなくても良い世の中になっていくことを望みます。LGBT当事者ではないので（今のところは、まず）、どのように関わっていけるか、関われば良いか、分からないというのが正直な気持ちですが、いつでも心を寄せていますし、この活動をこれからも応援し続けたいと思います。素敵な1日をありがとうございました！スタッフの皆様もお疲れ様でした！
- ・これからもブームで終わるだけでなくそれぞれの性が社会的カテゴリーに縛られない個にじっくり向き合った世界になってほしいと思う。
- ・国が動いて、教育が変わるよう働きかけを望みます。

○LGBT 関連の制度について

- ・20年ぶりにパレードを歩きました。仕事を失ったり差別がはじまったり、テロ等が怖かったりして参加しませんでした。おそらく、昔の知り合いがイベントにたくさん戻ってきているので同窓会の気分もあり楽しかったです。4月24日に私は馳浩衆議院議員様に陳情書を提出しました。婚姻に関する憲法(案)に関する陳情書です。

陳情の要旨

1. 婚姻に関する憲法(案)を考えました。以下の内容の制定を希望し陳情致します。

日本の全国民の成人は、婚姻に関して自由と平等な権利を有する。

配偶者両名が日本国籍同士の成人の間で成立する。

配偶者の片方が日本国籍と日本国において成人の年齢に達する他国籍人との間で成立する。

配偶者両名が他国籍である場合、登録パートナーシップ制度にて日本国内に居住する間、登録することができる。

子どもたちの未来の為に、少しがんばりました。実行委員の皆様ありがとうございました。特につっちーさん、これからもお元気で、ありがとう。

●アンケートについて

○改善点・要望

- ・アンケートが長い（2人）
- ・アンケートの選択肢が少ない。（2人）
- ・選択肢に違和感を感じる。
- ・どう答えたらいいか迷う設問があった。（2人）

- ・質問者のフォーカスがよく分からない。
- ・限定選択にすると結果の扱いが難しくなるので制限なしの多重選択にする方が、その後の分析の展開を考えると有意義かと思います。
- ・イベントのアンケートとセクシュアリティのアンケートは分けた方が参加者が多くなる様な気がしました。またアンケートにかかるおおよその時間を最初に明記した方が良いかもしれません。
- ・アンケートは当事者とアライの方とで分けた方が集計しやすいのではなかったですかね。アライが回答して意味があるのかな、と思う設問がいくつかありました。(3人)
- ・アンケートを取る際、同じくセクシュアルマイノリティである、インターセクシュアル、ノンセクシュアル、Xジェンダーの方も「LGBT」しか選択項目が無いことに困ってしまっているのでは、と思いました。
- ・主に性的指向に関する質問ばかりで、性自認に関する項目は少なかったが、「カミングアウト」ひとつとっても状況はまったく異なるのにアンケート結果が混合されてしまうのは疑問が生じる。
- ・アンケートの性別欄は運営がチェックすべき。(2人)
- ・ブースやステージの評価について「見なかった」という選択肢があるといいと思います。(2人)
- ・パートナーシップ証明書に関する質問には、複数選択の方がいい。
- ・LGBT 当事者であっても現行の婚姻制度に適応できる形のパートナーシップを持っていたりするので、それも考慮した選択肢があるとよかった。
- ・非常に貴重な調査かと思いますが、是非分析結果をフィードバックされるべきかと思うのですが、その点に関するアナウンスがなかったように思います(読み飛ばしていたのでしたら申し訳ありません)。結果のフィードバックを是非していただきたいと思います(できれば昨年度の分も含め)。
- ・LGを主に想定されたアンケートであるように感じられて少し残念でした。
- ・結果をぜひ公表してください。

○感想

- ・参考になれば幸いです。応援しています。
- ・この結果が世の中によい影響を与えることを切に願います。

(参考資料) 調査票見本

東京レインボープライド 2016 来場者アンケート

お願い

本アンケートは、「東京レインボープライド 2016」の協力を得て、「駒澤大学『人を対象とする研究』に関する倫理委員会」の承認を受け、「駒澤大学文学部社会学科松信ひろみ研究室」が主体となって実施するものです。東京レインボープライドにご来場、ご参加くださった方々を対象として、本イベントのご感想、ご意見をお伺いし、来年度以降の開催にあたっての参考にさせていただくことを目的としています。

無記名でご回答いただきましたアンケートは、統計的な処理により、個人の回答は特定できない数値の形（どの回答が何%といった形）で表されます。アンケートでは、みなさまの年齢や職業、セクシュアリティ、そして日ごろの生活や様々な事柄に関するお考えなど個人的なことも伺っておりますが、これらは、どのような方がどのようなご感想・ご意見をお持ちなのかといった傾向を分析するために必要なものです。本アンケートの趣旨をご理解の上、可能な限りご回答いただけますよう、お願い致します。

なお、本アンケートの結果は、秋以降の「東京レインボープライド 2016」の HP にて公開される予定です。

ご回答へのご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

2016.5.7、5.8

調査主体：駒澤大学文学部社会学科社会学専攻
松信ひろみ研究室（社会学演習Ⅰ）

【レインボープライドの会場でのイベントについて伺います】

Q1 今回の東京レインボープライド 2016 を知ったきっかけについて、あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 友人・知人の紹介
2. 自分がかかわっている団体が参加する
3. ラジオ放送などマスコミの報道
4. HP などインターネットのサイトをみて
5. Twitter をみて
6. たまたま会場の近くを通りかかった
7. 以前から来ている
8. その他（具体的に： _____) |
|--|

Q2 東京レインボープライド（プライドパレード）への参加は今回で何回目ですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 1回目（初めて）
2. 2回目
3. 3回目
4. 4回目
5. 5回以上
6. その他（ _____) |
|---|

Q3 あなたがこの催しにいらっしゃった目的について、主なものを順に三つまで、下の選択肢の中から選んで（ _____ ）内に番号を記入してください。

1. 1番の目的（ _____ ） 2. 2番の目的（ _____ ） 3. 3番の目的（ _____ ）

- | |
|--|
| 1. パレードに参加するため
2. パレードを見物するため
3. ブースを見たり買い物をしたりするため
4. ステージを見物するため
5. LGBTに関する様々な情報を得るため
6. LGBTの仲間と一年に一度のお祭りを楽しむため
7. LGBTの友人を増やすため
8. その他（具体的に： _____) |
|--|

Q4 会場でのイベントにはどの程度満足しましたか。a から d に関して、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	満足していない	やや満足していない	まあ満足している	満足している
--	---------	-----------	----------	--------

a.ステージ	1	2	3	4
b.ブース	1	2	3	4
c.パレード	1	2	3	4
d.飲食の屋台	1	2	3	4

Q4SQ1 Q4で「1. 満足していない」、「2. やや満足していない」に○をつけた方に伺います。それぞれについてどのような点に満足されなかったのでしょうか。それぞれについて下記の選択肢の中から、最もあてはまるものから順に、番号を三つまで（ ）内に記入してください。

- a. ステージについて () () ()
b. ブースについて () () ()
c. パレードについて () () ()
d. 飲食の屋台について () () ()

(選択肢)

- | |
|--|
| 1. どこにある（どこで）やっているのかがよくわからない
2. 開始時間がよくわからない
2. 内容がよくわからない
3. 内容に関心がもてない
4. 混雑しすぎている
5. 同じようなものばかりある（やっている）
6. スペース（見る場所、食べる場所など）が狭い
7. 参加しづらい雰囲気がある
8. メッセージ性が弱い
9. 制約が厳しすぎる
10. その他（上記（ ）内に具体的な内容をご記入ください） |
|--|

Q5 レインボーウィークの期間は、この会場でのパレードとフェスタのほか、パーティやワークショップなど様々な催しが行われています。あなたはこれらにも参加します（した）か。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. パレードとフェスタ以外にそのような催しがあることは、知らなかった。
2. パーティに参加した（する予定）。 |
|---|

- 3. ワークショップに参加した（する予定）
- 4. レクチャーに参加した（する予定）
- 5. 交流会に参加した（する予定）
- 6. いずれにも参加する予定はない
- 7. 未定
- 8. その他（具体的に： _____)

【以下では、皆様の日常生活やお考えについてお伺いします】

Q6 あなたはLGBT関連の団体や活動に参加していますか？あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- 1. LGBT 関連の団体に所属、もしくは活動に参加している
- 2. LGBT 関連の団体への所属、もしくは活動はしていない

Q6SQ1 Q6で「2. LGBT 関連の活動はしていない」と回答された方に伺います。そうした活動をされていないのはなぜですか。もっともあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- 1. どのような団体や活動があるのかよくわからないから
- 2. そうした団体や活動に興味がないから
- 3. まわりにカミングアウトしていないので、かかわることができない
- 4. LGBT 当事者ではないので、そうした活動にかかわる必要がないと思うから
- 5. その他（具体的に： _____)

Q7 あなたは、仕事を選択する際に、LGBT に理解のある職場であるかどうかを選択の基準のひとつとして考えますか？現在学生の方は、今後の就職活動を想定して、また現在職業をお持ちの方はこれまでの職場を決めた際のことを思い出して、あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- 1. まったく考えない
- 2. あまり考えない
- 3. やや考える
- 4. 大いに考える

Q8 あなたは、これまでに学校でLGBTに関する授業を受けたことがありますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. ある (→Q8SQ1にお進みください) | 2. ない (→Q9にお進みください) |
|------------------------|---------------------|

Q8SQ1 Q8で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた授業はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. LGBTという言葉について簡単に触れた程度 |
| 2. 具体的事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された |
| 3. LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談を聞いたりした |
| 4. その他 (具体的に：) |

Q9 あなたは、これまでに職場で LGBT に関する研修を受けたことがありますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. ある (→Q9SQ1にお進みください) | 3. 学生もしくは職場経験がない |
| 2. ない (→Q10にお進みください) | |

Q9SQ1 Q9で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた研修はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. LGBTという言葉について簡単に触れた程度 |
| 2. 具体的事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された |
| 3. LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談を聞いたりした |
| 4. その他 (具体的に：) |

Q10 あなたは、学校で LGBT に関する授業があったほうがよいと思いますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. あったほうがよい (→Q10SQ1へ) | 2. なくてよい (→Q11へ) |
|------------------------|------------------|

Q10SQ1 Q10で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|--|---|
| 1. LGBT という言葉に触れる程度
2. 具体的に事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明する
3. LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談を話してもらおう
4. その他（具体的に： |) |
|--|---|

Q11 あなたは、職場で LGBT に関する研修があったほうがよいと思いますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. あったほうがよい (→Q11SQ1 へ) | 2. なくてよい (→Q12 へ) |
|-------------------------|-------------------|

Q11SQ1 Q11 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|--|---|
| 1. LGBT という言葉に触れる程度
2. 具体的に事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明する
3. LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談を話してもらおう
4. その他（具体的に： |) |
|--|---|

Q12 あなたは、商品を購入する際に、その商品を製造している会社が LGBT に理解のある会社かどうかを考慮して購入しますか（例えば、同じ種類の複数の商品から1つを選ぶ際に、多少価格が高くとも、LGBT へ理解を示している企業の製品を買うなど）。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. まったく考慮しない | 3. やや考慮する |
| 2. あまり考慮しない | 4. 必ず考慮する |

Q13 あなたは、新宿2丁目の LGBT が集まるお店をどの程度利用しますか？あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. ほとんど利用したことがない | 5. 週に1、2回くらい |
| 2. 年に1、2回くらい | 6. 週に3、4回くらい |

- | | |
|--------------------|---------|
| 3. 2, 3か月に1, 2回くらい | 7. ほぼ毎日 |
| 4. 月に1, 2回くらい | |

Q14 昨年、渋谷区では、同性パートナーシップ証明書が、世田谷区では、パートナーシップ宣誓書が発行されるようになりました。あなたがお住まいの自治体でもこのような証明書が発行されることになった場合、あなたは利用したいと思いますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 利用しない (→Q14SQ1 へ) |
| 2. 絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない (→Q14SQ1 へ) |
| 3. 必ず利用するかどうかわからないが、たぶん利用する (→Q14SQ2 へ) |
| 4. 必ず利用する (→Q14SQ2 へ) |
| 5. LGBT ではないので利用できない |

Q14SQ1 Q14で「1. 利用しない」「2. 絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない」と回答された方に伺います。利用しないのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 証明書の取得手続きが面倒だから |
| 2. 証明書発行にお金がかかるから (無料なら利用してもいい) |
| 3. これまでに困ったことがないから |
| 4. 証明書を利用する機会があまりないから |
| 5. 結婚はしたくないから |
| 6. 表面的なもので実効力がないから |
| 7. 異性間の婚姻と区別されているのが嫌だから |
| 8. その他 (具体的に :) |

Q14SQ2 Q14で「3. 必ず利用するかどうかわからないが、たぶん利用する」「4. 必ず利用する」と回答した方に伺います。利用しようと思うのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. パートナーや子どもの入院・手術など病院関連のことで、これまでに困ったことがあったから (これからあるかもしれないから) |
| 2. パートナーと住まいを探すときに、これまでに困ったことがあったから (これからあるかもしれないから) |
| 3. 職場で配偶者関連の福利厚生を受けたいから |

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 4. | パートナーであることを公的機関から証明してもらうこと自体がうれしいから |
| 5. | 当然の権利だと思うから |
| 6. | その他（具体的に： _____ ） |

Q15 海外では、同性の法律婚が認められたり、同性カップルの法的保障が進められたりしています。日本でも渋谷区の同性パートナーシップ証明書や世田谷区のパートナーシップ宣誓書が施行されましたが、法的な保障制度ではありません。あなたは、日本においても、法的な保障制度が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|----|--|
| 1. | 異性間の法的婚姻制度と同じ同性間の法的な婚姻制度 |
| 2. | 異性間の法的婚姻制度とは異なる形での法的な保障をとまなうパートナーシップ制度 |
| 3. | 渋谷区や世田谷区のように法的保障は伴わないけれど、パートナーであることを証明できる制度 |
| 4. | 法的婚姻ではなく、異性カップル・同性カップルにこだわらない事実婚の形で法的な保障を受けられる制度 |

Q16 あなたは日常生活において、LGBTであるからということで不便、不自由を感じることはありますか？a から c についてあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

	ほとんどの い	あまりない	ときどきあ る	よくある	LGBT では ない
a.人間関係	1	2	3	4	5
b.生活環境	1	2	3	4	5
c.社会保障	1	2	3	4	5

【以下では、あなたご自身のことやご家族のことについて伺います。集計・分析に必要な質問項目ですので、趣旨をご理解の上、できるだけお答えください】

Q17 あなたは現在おいくつですか。（ ）に数字を記入してください。
（ ）歳

Q18 あなたのおすまいはどちらですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|----|----------------------------------|
| 1. | 渋谷区 |
| 2. | 東京 23 区（渋谷区を除く） |
| 3. | 東京都下（三鷹市、小平市、国立市、八王子市など都内市部及び町村） |

4. 東京近郊県（千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県）

5. 北関東（群馬県、栃木県、福島県）

6. 甲信越（山梨県、長野県、新潟県）

7. 1～6以外の国内（具体的に： _____）

8. 海外（具体的に： _____）

Q19 あなたはどなたと暮らしていらっしゃいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 一人暮らし

6. パートナー

2. 自分の父親

7. 自分あるいはパートナーの子ども

3. 自分の母親

8. パートナーの父親

4. 兄弟姉妹

9. パートナーの母親

5. 祖父母

10. その他（具体的に： _____）

Q20 あなたは、現在お付き合いされている方はいらっしゃいますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

1. いる

2. いない

3. 過去にはいたが、現在はいない

Q21 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたは、どのようなことを望みますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。

1. パートナー証明書の取得

2. 結婚式を挙げる

3. 二人で落ち着いて暮らすことのできるすまいを探す

4. 職場で二人の関係を理解してもらう

5. 友人に二人の関係を理解してもらう

6. 両親や家族に二人の関係を理解してもらう

7. その他（具体的に： _____）

Q22 現在、同性の方の配偶関係を指す言葉としては、「カップル」、「パートナー」という性を区別しない英語をカタカタに直したものが使われており、「夫婦」「妻」「夫」に代わる日本語として定着した用語はありません。このような状況に関して、あなたはどのように思われますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

1. 「カップル」、「パートナー」という言い方でかまわない
2. 「夫婦」「夫」「妻」という用語をもとに、「夫夫」「妻妻」など同性同士の配偶者であることがわかる用語を使う
3. 性を区別しない配偶者の関係を示す日本語の新しい用語を作ったほうがよい
4. とくにこだわらない
5. その他（具体的に： _____）

Q23 あなたのご職業について伺います。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1. 正社員・正規職員 | 5. 非正規社員・職員（パート・アルバイト・派遣等） |
| 2. 会社経営者・会社役員 | 6. 学生 |
| 3. 自営業主（自由業を含む） | 7. 無職（主婦を含む） |
| 4. 家族従業者 | 8. その他（具体的に： _____） |

Q24 あなたのセクシュアリティについて伺います。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|----------|
| 1. LGBT(セクシュアル・マイノリティ)である | 3. わからない |
| 2. LGBT（セクシュアル・マイノリティ）ではない | |

Q25 あなたの身体的性と性自認について伺います。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

1. 身体的性も性自認も男性である
2. 身体的性も性自認も女性である
3. 身体的性は男性だが、性自認は女性である（MtF）
4. 身体的性は女性だが、性自認は男性である（FtM）
5. 身体的性は男性だが、性自認は男性でも女性でもない（MtX）
6. 身体的性は女性だが、性自認が女性でも男性でもない（FtX）
7. 身体的性、性自認とも男性、女性のどちらでもない（XtX）
8. その他（具体的に： _____）

Q26 あなたの性的指向についてお伺いします。あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。

- | |
|-------------|
| 1. ヘテロ（異性愛） |
|-------------|

2. ゲイ（男性同性愛）
3. レズビアン（女性同性愛）
4. バイセクシュアル（両性愛）
5. パンセクシュアル（全性愛）
6. ノンセクシュアル（非性愛）
7. アセクシュアル（無性愛）
8. その他（具体的に： _____)

Q27 あなたがご自身の性自認や性的指向について自覚されたのはいつごろからですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

1. 小学校入学前
2. 小学校低学年（1年生から3年生）
3. 小学校高学年（4年生から6年生）
4. 中学生
5. 高校生（16歳から18歳）
6. 大学生以上（19歳以上）
7. その他（具体的に： _____)

Q28 あなたはご自身がセクシュアルマイノリティであることを周りの方にカミングアウトしていますか。あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。

1. だれにもしていない
2. 一部の人にだけしている（→Q28SQ1へ）
3. 家族、友人・知人、職場、学校など全ての人にしている
4. セクシュアルマイノリティではないので、カミングアウトの必要はない

Q28SQ1 Q28で「2. 一部の人にだけしている」と回答された方に伺います。具体的にはどなたにカミングアウトされていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。

1. 父親
2. 母親
3. 兄弟姉妹
4. 祖父母
5. 親戚（おじ・おば・いとこなど）
8. 学校（時代）の先生
9. 職場の同僚
10. 職場の上司
11. 近所の人
12. パートナー

一として来場された結果であると思われる。

本調査は、来場者を対象としたとはいえ、調査に協力してくださった方は、約7万人の来場者の極一部である。さらに言えば、今回の催しに来場した LGBT の方々を対象としている調査であるため、必ずしも「日本の」 LGBT の方々を代表しているとはいえない。

しかし、これまで LGBT の方々を対象とした調査といえば、インタビューなどの質的調査法に基づく、各個人ごとの事例調査が主体であった。つまり、「多様な LGBT の方々」の「多様な経験・意識」を明らかにするという調査である。しかし、今回の調査は、調査票に基づく量的調査であり、多様な LGBT の方々の「個人的な経験・意識」ではなく、多様な LGBT の方々に「共通してみられる経験・意識」を見出そうとするものである。

そうした意味で、本調査により、「多様な LGBT の方々」が共通して抱えている問題、意識を発見する糸口を見出すことができたといえるのではないだろうか。

冒頭の調査概要では、昨年と同じ調査項目に関しては、可能な限り昨年度の数値との比較を言及している。本調査結果が、来年度のレインボープライドのイベントへの提言となるばかりでなく、LGBT の方々の実態を少しでも明らかにすることができるものであることを期待している。

このたびの調査では、当日配布した紙媒体の調査票に加えて、ほぼ1ヶ月の期間を設けての web 調査も実施した。しかし、これらの調査票の連動がうまくいかず、回答者の方々には多大なご迷惑をおかけしてしまったことを、心よりお詫びする。

最後に、本調査の実施を快諾してくださった「東京レインボープライド 2015」の共同代表者である山縣真矢さんと杉山文野さん、そして、何よりも本調査にご回答くださった来場者の方々に感謝し、本報告書の結びとしたい。

2017年2月吉日

駒澤大学文学部 松信ひろみ

「東京レインボープライド 2015 来場者アンケート調査」報告書

2017年2月25日発行

発行 駒澤大学文学部社会学科社会学専攻

松信ひろみ研究室（社会学演習Ⅰ）

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

第一研究館 1515

電話 03 (3418) 9298 (研究室直通)

Email:mhiromi@komazawa-u.ac.jp